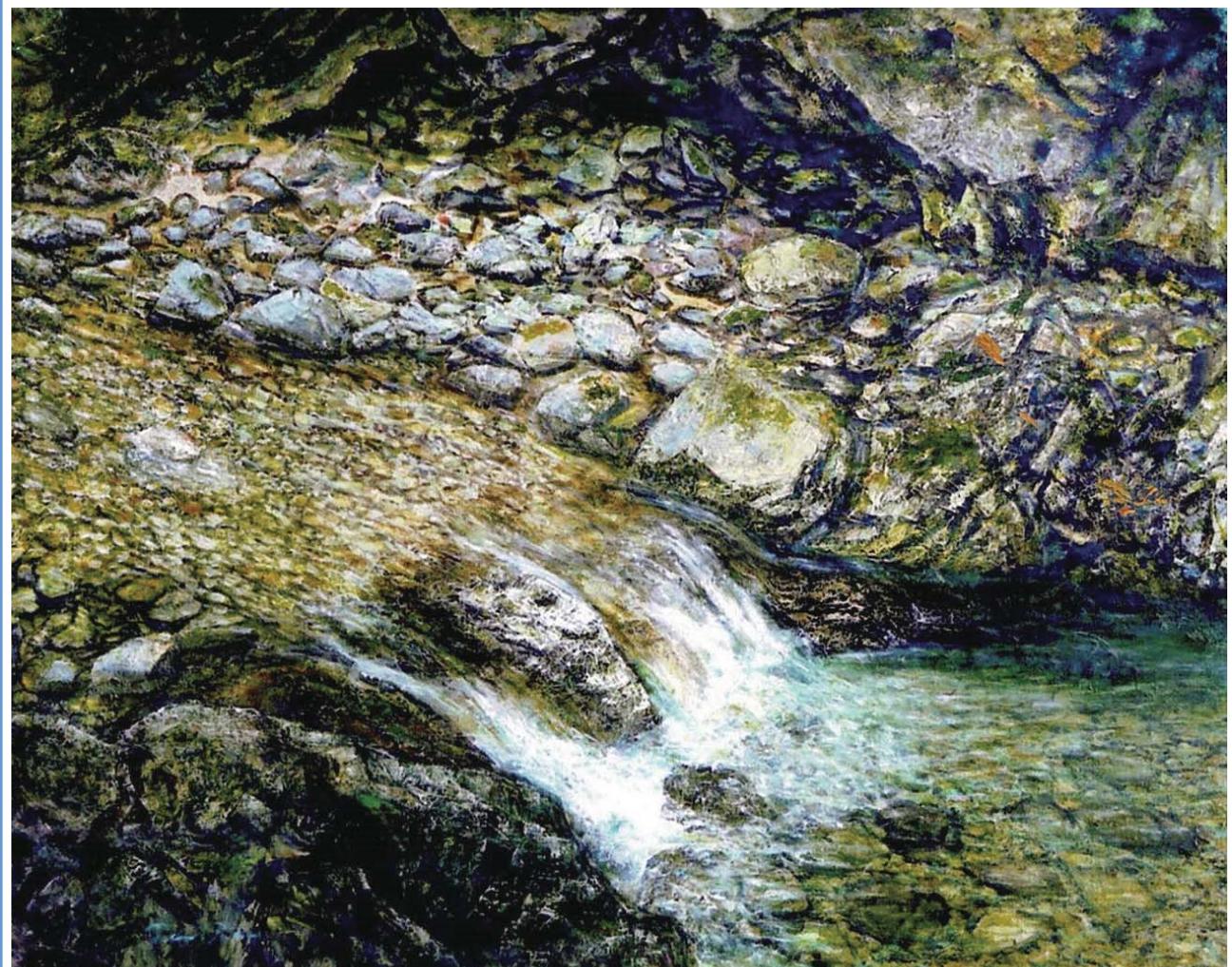


やまさき文化

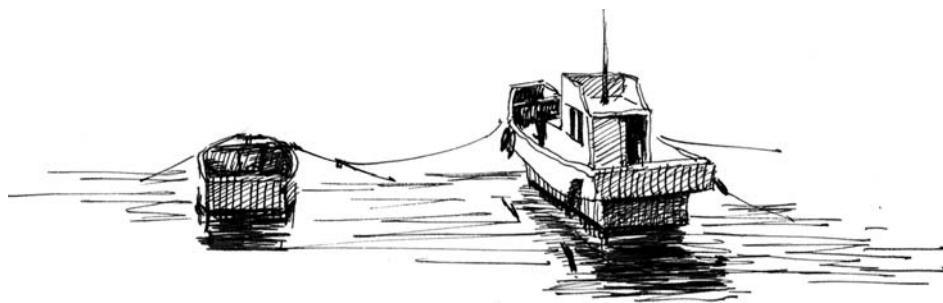
’21-3 *No.40
発刊40年記念号



穴粟市山崎文化協会

やまさき文化第四十号発刊にあたつて

宍粟市山崎文化協会長 前野 良造



今回の発刊をもって、「やまさき文化」は第四十号を迎える。昭和五十七年（一九八二）二月に創刊号が発刊され、以降毎年欠かすことなく今回の中四十号に繋ぐことができ、これまで「やまさき文化」発行に携わつてこられた歴代の編集委員及び関係者の方々のご努力とご功績にあらためて敬意を表し感謝申し上げます。

「やまさき文化」は山崎文化協会の機関誌として、加盟各団体の活動紹介、情報交換、また小説・短歌・俳句等文芸活動団体の発表の場としてこの地域の文化振興に大きな役割を果たしてきました。特に、毎号掲載される巻頭の小説や随想、各界で活躍されている地域出身の方々によるご寄稿ふるさとへのメッセージは大きな特長で、地域の文化機関誌としての希少性を高めていると思います。

今回、このようなこれまでの「やまさき文化」の主要な内容や編集活動を一括してまとめていただき、今号で掲載していただきました。また、山崎文化協会の本年度の事業として協会のホームページを開設し、その中に「やまさき文化」バックナンバー（創刊号～最新号まで）をすべて保存、いつでもどなたでも閲覧できる環境を整えています。歴代の加盟団体の活動や文化協会の歴史を振り返ることが容易になり、この地域の文化的特徴と変遷を知る一助になることと期待しています。

令和二年度は新型コロナ感染症拡大の下、多くの加盟団体が活動発表の場や仲間で集う機会すら失われ活動自体が低調あるいは休止に追い込まれている団体も少なくありません。そのような環境下でも、山崎文化会館の「芸術文化活動団体支援事業」を活用して徹底した感染対策の元で舞台発表にチャレンジしている団体もあれば、コロナ禍後あるいは新たな生活様式の下での活動再開に向けて今は個々の能力向上に励んでおられる方々もあろうかと思います。この困難な時期を単に休止休養するのではなく、将来的の活動の方向性を熟慮しこの地域の文化を更に醸成していく力を蓄える機会にしたいものです。そしてその方向性は、これまでの「やまさき文化」各号の中にヒントがあるのではないかと思います。

宍粟市山崎地域の文化活動アーカイブとしての「やまさき文化」を今後も継続していきたいものです。

◇ 目 次 ◇

やまさき文化第四十号発刊にあたつて 前野 良造
往事をあるく 宍粟 三日月 赤穂

特別寄稿
ふるさとの訛りなつかし

俳 句 短 歌

金谷四号墳と五号墳について
一期一会を大切に

我人生を顧みて

能楽と邪氣疫病祓い

音楽の力

コロナ禍中において思う事
さつき民踊グループの足跡

絵との出会い、そして
若西神社獅子舞保存会の現況

宍粟の碁に育てられて

自分のためが人のために
開店休業 コロナとの闘いの中で

コロナ禍に想う

お琴と尺八を始めたきっかけ、苦しかった事、
楽しかった事 池垣愛来・松本沙良・小椋結衣

私と踊り

早く会いたい笑顔に

コロナ禍での活動

新型コロナ禍のコータス事情

二〇二〇年を振り返って

山崎・加生・つた・いさわ冠句会 川柳破丸会

四十号記念特集

およろこび 改組 新 第七回 日展

ともしひの賞 受賞

荒木俊介さんを悼む

事務局だより

編集後記

表紙題字

挿絵

伊藤 次郎 鎌田 裕明 鎌田 裕明 中瀬 公三 長川 伸介 鎌田 裕明
中野 刚志 小林由佳子 山本 修示 中野 刚志 小林由佳子 山本 修示 中瀬 公三
坂東寿賀幸 石田 陽子 長川 伸介 鎌田 裕明 中野 刚志 小林由佳子 山本 修示 中瀬 公三
荒木 俊介 多田 多恵美 荒木 俊介 荒木 俊介 多田 多恵美 荒木 俊介 荒木 俊介 多田 多恵美
福岡 久藏

往事をあるく

宍粟 三日月 赤穂

浅田耕三

元禄十五年（一七〇二）の赤穂浪士の討入りは日本の近世史の中でもっとも人々に知られ、もてはやされて今日迄映画、演劇等々に広く演じられてきました。

けれどその討入りから一六〇年後の文久二年（一八六二）、紀州高野山麓を舞台に、赤穂藩士の凄惨な復讐劇がくりひろげられたことはさほどには知られていません。

その顛末を以下に記してみましょう。

周知のように赤穂藩主浅野家は元禄十四年浅野長矩の刃傷事件により断絶し、江戸時代末期は、備中西江原から転封してきた森家が赤穂の藩主でした。

森氏というのは、豪勇の戦国武将として知られた森可成とその子長一と、彼の弟たち三人。すなはち本能寺の変で信長に殉死した森蘭丸、坊丸、力丸が出た武勇の誇れ高い一族でした。

関ヶ原合戦で武功をたてた森氏は合戦後の慶長八年（一六〇三）、美作国十八万石の領主になりますが、この一族は不思議に非運に遭うこと多く、可成は信長の朝倉攻めで討死、長一は小牧長久手の戦いで同じく討死、そして本能寺の三兄弟の死、その後も不幸がつきまとって後継者に恵まれず、赤穂へ移封してきた時は僅か二万石の小藩でした。

けれどその一族の別家が播州三日月藩一万五千石の藩主になっています。この三日月藩別名乃井野藩は、宍粟郡内にも一八カ村の領地をもち私の生まれ在所の青木村（現山崎町青木）もその一つで、川の下流一キロ程の村に三日月町本郷へ越す「ホンゴザワ」の峠があり、私も若い頃二、三度越した事があります。私の先祖もここを通って年貢を納めていたのでしょう。「ホンゴザワ」と私たちは子供の頃から言い慣れていましたが正しくは「ホンゴウダワ」かも知れません。「沢」は山間の湿地、谷川をいい「撓」は尾根などがたわみ、低くなつた所、をさす、と辞書にありますから。「ウ」音は音韻脱落です。

さて三日月藩の藩医であつた方の風格のある立派な屋敷が青木にあります。戦前その当主の方が村長をされていました。その方の葬儀には小学生だった私たちも道路に並んで柩をお見送りしたのをおぼえています。

村役場に勤めていた私の父もその方の下僚の一人でしたが、この村長さんを終生親炙敬愛し、ほんとに立派な人じゅうたと折にふれては兄や私にあの、人の善意を信じ疑われぬ心状は武士道の影響かな、儒教、特に朱子学で養われた人格と思う、と話していました。

村から四キロ程南へ下った所に邸があつたとされる高名な朱子学者山崎闇斎への憧憬がこの方にはあったのかもしれません。

さて、高野山麓の仇討ちのいきさつを述べてみます。

文久二年（一八六二）一二月九日（旧暦）の四ツ（午后十時）すぎ、播州赤穂藩、森家の用人村上真輔の門を遠慮がちにたたく者があつた。

「誰じゃ、こんなに遅うに」

不機嫌そうに門番が訊く。

「宵も過ぎてから申訳ありません。西川升吉ですがこれより火急の用で京に出立することになりました。ついてはご子息直内殿にお言づてでもありましたら承つて参ろうかと存じまして……」

直内は真輔の嫡男で、今京屋敷にいる。

「それはご苦労なことで」

門番は疑いもせず、くぐり戸を開けて客を玄関へ案内し、自分は主人の居間の前で板戸越しにかくと告げた。

さようか、真輔はこたえて、はて、あやつが伴に言づてじよとー、ふと不審の眉をくもらせたが、脇差をとつて何気なく玄関へ出た。

いきなり三和土から式台へ飛び上がった暴漢は身を躍らせて真輔に一撃を浴びせてきた。とっさに真輔は鞘のまま相手の刀を受けとめた。だがよろけた。

うしろの戸にもたれかかった顔面へ升吉の二撃目がうなりを生じた。同時にいつのまにか庭の闇の中にしのび込んでいた升吉の徒党四人が奇声を発して踏み込んできて六十五歳の真輔におそいかかった。

顔、胸、腹に凶刃を受け、昏倒した真輔の上へ升吉がのしかかり首を打った。五人はその足で赤穂城二ノ丸へひき揚げてそこに待ちかまえていた升吉の兄邦治ら八人と合流、気配を消して物陰にひそんだ。

この夜、國家老森主税は二ノ丸内のさる家士の茶会に招かれ、終つて微醺を帯びた足取りで下僕のてらす提灯をたよりに暴徒のひそむ現場を通りかかった。と、闇の中から黒い影が躍り出てきておそいかかった。

主税は豪剣をつかう。とつさに抜き放つて最初の刃をはねのけると凶徒はうしろへはねとんだ。だが間髪をいれず真うしろからおそってきた二人目の男の薙ぎ払った刀を腿にうけてころび、数人に押さえつけられて首を打たれた。場所は赤穂城築城の際使い余ってそこに置かれていた大石の近くでこの石はたたくとカンカンと音がするといわれていた。

打たれた首は斬奸状と共に大目付宮地方之助邸へ投げ込まれた。

文政七年（一八二四）に赤穂藩主となつた森忠徳は武勇のほまれ高い先祖とは似ても似つかぬ、名前だけ立派な暗愚で享楽型の君主で、藩の主要産業たる塩業が衰微しても何の手も打たず藩累積赤字は十七万両にもなつていて。家臣の扶持もとどこおり、その無能藩主が三十八年間も殿様だったから領内は疲弊、人心は荒廃し、家臣どうしの不信、反目、疑惑がはびこり内紛が絶えなかつた。

国許派（守田派）と江戸派（急進派）のあらそいもある。国許派の頭目が家老の森主税と用人の村上真輔で、この二人を討つたのが江戸急進派に与する西川升吉ら十三人であった。彼らはいずれも扶持米取りの軽格だったが、反対派の重鎮を斃して急進派の勢力を一気に盛り立てたと得意であったが、物情騒然たる時流の中で世に出たいというのが本音であった。

十三人はその夜のうちに領外へのがれ、二日のち土佐藩京屋敷の門をたたき土佐勤皇党の保護を受けた。彼等の意図は成功し、江戸急進派の森続之丞が用人に返り咲いた。

彼は森主税、村上真輔の子や縁者たちを永久追放や閉門などにし、十三人の暗殺者は勤王の志ゆえの行為として何の咎めもしなかつた。

しかし土佐藩邸にかくまわれた西川たちも思惑通りだつたわけではない。彼らの保護者土佐藩の平井收二郎は日頃の矯激な言動がたたつて藩主に国元へ召喚され切腹を命じられた。

庇護者を失つた十三人は海路赤穂へ送り返される。しかし赤穂でも頼みの森続之丞は病氣引退、じりじりと頭をもちあげてきた保守派により彼等は入牢を命ぜられる。百日後、出牢するがもともと勤王の志よりおのれが世に出るのが目的だったから、こんな筈ではなかつたと憤懣やる方なく再び脱藩、各地を転々としたのち長州へ入つた。けれど長州も八・一八の政変以来昔日のおもかげはない。十三人はばらばらになり、升吉と疋田元治、幸田豊平の三人はひそかに赤穂に舞い戻り福泉寺に隠れた。

しかし三人共気分は荒み切つていて。酒に酔つてけんかになり、升吉は疋田の抜き打ちをくらつて斬殺される。残つた二人は、彼等微禄者をそそのかした自分の行状が白日にさらされるのをおそれた上司の手引きで逃亡した。

こうして十三人には病死するもの、成りゆきに絶望して自害するものもあり、そのうち埋葬していた升吉の首が掘出されて尾崎川原に曝されるという不気味な事件が起きた。森、村上派の中の誰かの仕業とは推察されたがそれ以上はわからない。

かくて藩は、生き残っている升吉の兄西川邦治ら六人に、高野山釈迦文院にある森家の墓守を命じて一人半扶持を全員に与えることにした。殺生禁断の高野山に入れてしまえば、ことは治まるとの判断なのである。

しかし村上方は、この高野山行きを絶好の機ととらえて復讐計画を練つた。真輔の長男直内は病死、次男駿之輔は文久事件の直後赤穂を立退こうとしたが足軽十五人に国境で待ち伏せされ、進退窮まって菩提寺に入つて自害してい

森主税の養子熊虎も病死、真輔の方は男子に恵まれ、復讐に奮い立つたのは

三男池田農夫也、四男村上四郎、五男行蔵、六男六郎に真輔の孫宮田嘉三郎、甥の津田勉、六郎の親友赤木俊三の七人。

一方高野山の墓守として山へ登るのは西川邦治、田川運六、その弟の十三歳の岩吉、吉田惣平、山本隆也、八木源右衛門、山下銳三郎の七人。今後の山上の生活に必要な品を壱で買いそろえ大きな荷にして背負った。かつて村上家に出入りしていた人物の子で相生うまれの浅五郎なる者が高野山参拝者に紛れて七人を追尾していたが西川達は少しもそれに気づかなかった。

時は明治四年二月三十日（旧暦）。先行した村上一行は左手が崖、右側が絶壁、後方に黒石という巨岩が道を狭くして逃げ場のない場所を選んで待ち伏せた。そして道端で差込みで苦しんでいるさまを池田農夫也が演じ六郎が介抱している格好をし、他の五人は雑木の中にひそんで西川達がかたわらを通りすぎた瞬間、仮病の二人がめいめい持っていた短銃を空に向けて発射、この空砲を合図に武器をふりかざした五人が西川らにおそいかかった。うち三人は手槍である。不意をつかれた西川らは背に大荷物を背負い、急坂をのぼってきて疲れ息を切らしている。必死に荷を解き立ち向かったが腹を槍で刺される者、首筋にあるいは顔面に一刀を浴びる者、肘を切り落とされて大地にころんでもがく者、中には後方へ一町（一〇九メートル）程も逃げかけたが追いつがつた者の一刀を背に浴びて斃れる者もいた。激闘半時間、かくて六人は悉く斬殺された。

あわれなのは少年岩吉で、彼は文久事件の時は僅か四歳、もちろん事件に關係なく村上方も討つ氣は全く無かった。だが刀を抜いて健気に立ち向かってきて、とらえて刀の下げ緒で木の根に括りつけた。だが自分で緒を切つて再び斬り込んできたので嘉三郎が切り伏せた。嘉三郎も若くて敵方の顔に見覚えは全くなかった。

岩吉はうしろ首筋にかなり深い疵を受けていたので村上方はたたかいのあと応急の手当てで止血をし、事件を知つて集まってきた人々に十分な手当を頼んだ。こうして岩吉は西川方でただ一人生き残っていたのだがその夜遅くに息をひき取つた。

他の六人は悉く首を打たれ首のない遺体が参道のそこここにころがるむごた

らしさであった。村上方では四郎と勉が重傷で、傷を診た医者も生存を危うんだがその後手厚い治療の結果一命をとり止めた。

事件はその日のうちに村人が五条県へ訴え高野山の寺務所へも村役人が届け出た。重傷の二人を戸板にのせて一行は山を下りひとまず宿舎にひき上げ翌朝五条県へ自訴した。

その夜高野山一帯は強風と豪雨が吹き荒れ現場のおびただしい血痕を洗い流したという。

七人は五条県で丁重な軟禁の扱いを受け、翌年和歌山県へ、更に大阪へ移され取調べを受けた。

明治六年二月、七人は死罪の判決を受けたが特例により死一等を減じられ親類あずけとなつた。

この同じ日に復讐禁止の布告が太政官から出された。仇討禁止令である。

明治九年、七人は贖罪金を納めて釈放される。けれど日本の武家社会にしつつこく張りついで当事者を苦しめた仇討ちの風習はこのあともいくつか続き、ほんとうに最後となつたのは旧秋月藩士が父母の仇を討つた明治十三年であった。

さて、こんな陰惨なあらそいが起きたのもそのもとは二つの派の反目反感である。

幕末のような閉塞感が濃厚で世情が騒然としている時代は人は不安に駆られ、防御本能から仲間を集め、徒党をくんで身を守ろうとする。赤穂藩のような家臣どうしの対立は大なり小なり多くの藩にあった。

本稿に記した赤穂藩のこのあらそいも、話の切り取り方で一方的に江戸急進派に非があるような書き方になつたが、事実は保守派にも迷妄誤謬じびゆうがあつて藩の行方をあやまられた。

藩財政が逼迫し藩政改革が必要不可欠とわかつても、現政権にその能力がないとなると身分階層に目をつむってでも有能な人物に頼ろうとする。話は前後するが赤穂藩の足軽で鞍懸寅二郎という二十四歳の若者が藩の重臣

た。が、それに反対したのが国許守旧派で、寅二郎の推挙は続之丞一派の陰謀だとしてこの新任奉行を放逐してしまった。寅二郎は何一つ着手せぬまま職を追われたのである。

ところがこの人物の能力は実は抜群であった。彼はその五年後、皮肉にも森家と縁の深い作州津山藩に採用され、破綻寸前にあつた藩財政をみごとに建てなおし、ますます重用されて藩の権大参事、議事局議長となつて大活躍したのである。

さらに明治新政府も彼の能力に着目し、民部省出仕に任じてその能力を発揮させた。

この鞍懸寅二郎を奉行に任じたことで森続之丞とその側近の吉村牧太郎は蟄居となり藩政から遠ざけられている。

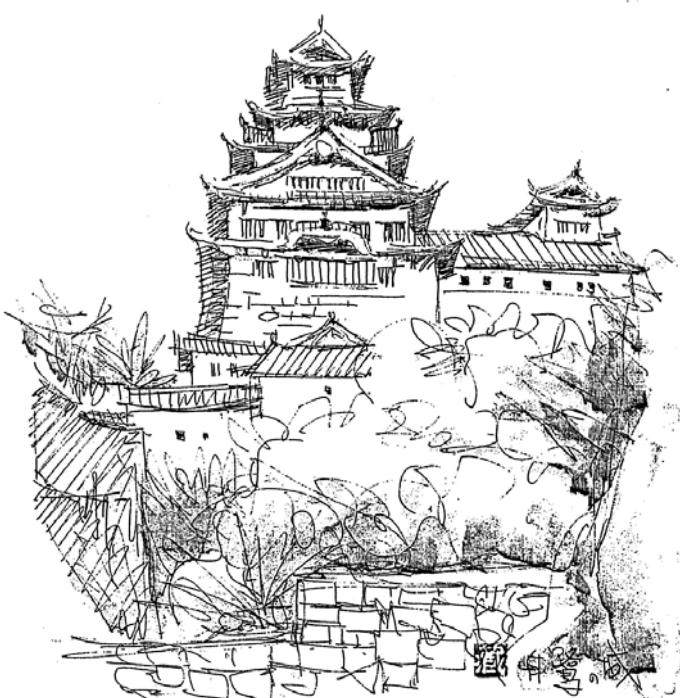
派閥のあらそいは、相互に不信を招き、相手方のやることすべて奸計だと曲解してしまふのである。

(参考書)

「高野街道の仇撃」神戸新聞出版センター

「物語藩史」八巻 新人物往来社

「妖談奇譚」新人物往来社



ふるさとの訛りなつかし



姫路文学編集人・作家
中 島 妙 子

(旧姓小野・宍粟市山崎町出身)

「かつて耳にしたことがある

記憶の襞のきれぎれに

はりついている

忘れていたでこぼこした傷跡の

傍らにたたずんで語る

あなたの肉体の感触が

彼方に漂うて

さざ波の懐かしい匂い

それがふと鼻腔をくすぐりながら私の

手元をゆらゆら揺する」（一〇二〇・一二・一八）

私は告白を嫌ったメリメのように自分を語ることがあまり好きではない。それに、人に語るほどのキャリアがあるわけでもない。しかし、依頼を受けたからには、ここにささやかな私の半生を綴ってみたい。

生死の境から一度生還

私は昭和九年十二月、宍粟市山崎町（旧宍粟郡菅野村）で六人弟妹の長子として母二十二歳、父二十四歳の時に生まれた。

初産による難産のために仮死状態で生まれ、熟練の助産婦さんのお陰で二十分後に生き返ったそうである。

「妙子、あんたはな、ほんまは死んで生まれたんやで。」

子どもの頃母から何度も聞かされて育った。
長じて結婚し、一人娘が二歳になつたばかりの二十五歳の七月のある金曜日、

勤務中に倒れて病院に運ばれ、致死率九十九・九九パーセントから奇跡的に生還して「金曜日の奇跡の女」……と病院中で話題になった。

「あんたかいな。奇跡の女というのは……。女はほんまにしぶといな。

男やつたら全滅やで……」病室に入つて来るなり、娘の出産時の担当医だった浜中医師は私を覗き込んで言った。

以来長い間、後遺症と共に存しながら、「娘が成人するまではどうぞ生かしてください」と祈つて五十年……。やつと生き永らえて、いや生かされて昨年十二月八十六歳になつた。

戦争勃発へ

国家総動員法のもと、国民学校と改称された小学校に昭和十六年四月入学した。

その年の十二月八日、国民学校一年生で太平洋戦争が勃発した。

幼い私たちは銃後の少国民と呼ばれて毎日のように山や野へ勤労奉仕の労働に駆り出されてろくに勉強もできないうちに昭和二十年八月、敗戦した。連合軍による国土総爆撃によって何もかもが焼き尽くされ国は亡びた。

ポツダム宣言を受諾し、無条件降伏して、連合艦隊司令長官アメリカ合衆国マッカーサー元帥が来日し、国家体制はすべてGHQに委ねられた。国家的機能は麻痺して経済は貧窮のどん底にあり、都市には復員軍人や浮浪者があふれて食うもの着るものはなく、裁判官が餓死したりした。

新憲法が施行されGHQの命令下、新しい義務教育制度のもとで私たちは新制中学校第一期生として入学した。校舎も運動場もまだなかつたが、平和で毎日勉強できる日々は楽しく、恩師たちは皆若く新しい日々に清新の気概は満ちていた。

制度も施設も緒についたばかりで不備だらけだったが、毎日が本当に楽しく満足した中学校生活を送ることができた。戦争が終わり貧しいが真に生き返つたような中学校生活の日々は、私の人生の原点を形作つたとさえ言える。

中学校を卒業すると経済的理由で進学を断念して東洋紡績に集団就職した。西日本各地から中学卒の五二〇人ほどが女子工員として入社し、中から選ばれ

て五人ほどが再びテストを受け、なぜか私独りが研究室に配属された。残りの四人は試験室勤務となつた。

全員が女子寮に入り、作業衣と制帽で、昼夜二交代で紡織機の作業についたが、私は私服で昼間工場の隅にある小さな研究室で若い立花研究員と二人だけで机に向き合つた。「ぼくが頼む仕事だけしてくれればよい。あとは自由にして……」と言われたが、そう頼まれる仕事があるわけではなく一日所在なくぼうとしていることも多かった。時々キャラメルやお菓子などをいただきながら外に出て日向ぼっこをしたりした。

毎月給料はもらつたが働いているという実感はあまりなかつた。暇に任せて

図書館から借りだした本を読みまくつた。

おかげで椎名麟三を初めて新刊で読み、戦後派作家を月刊誌で手当たり次第に読んだ。

社内実務高等学校一年目が過ぎた頃、寮を出て下宿し、県立の定時制夜間高校城北高校に入学した。同時に研究室は閉鎖になり、立花研究員は転勤し、私は試験室に配置換えになつた。試験室では吉井課長の下、指示された仕事のノルマさえ果たせばあとは自由で、時々、誰も来ない隣の暗室で暗い紫色の紫外線の光を頼りに独り、夢想にふけり、英語の単語などを覚えた。相変わらず図書室の本を借りては手当たり次第に読んだ。

夜間高校は楽しかつた。学制の混乱期で実に多様な経験の先輩たちに恵まれた。文芸部に入部してつたない文章を書きながら先輩たちと交わつた。文化祭でシラノ・ド・ベルジュラックの「鼻」を演じたことは忘れられない。

多才な先輩たちと交わりながら高校時代は実に楽しかつた。

最高学年の秋、会社を辞めて受験勉強に専念した。一日中城内図書館で勉強して、疲れると先輩たちと交流した。

文芸部の先輩たちは多くは大学に進学して中学や高校の教師になつた。そして無事に定年退職している。中でも大阪外大在学中に、英語を特訓してもらつたり、大学で翻訳を助けてもらつたりした先輩の一人は、猛勉して東京大学に

転入して卒業したが、六十歳過ぎに亡くなつた。生死の輪廻・禍福の不思議を思う。

千種中・三土中へ

私は昭和三十年、自我肥大して己惚れ、奈良女子大を推薦する担任教師を無視してお茶の水女子大の哲学科を受験して失敗し、まだ受験機会のあった関西学院大学短期部に入学した。奨学金を受けながらの二年間は瞬く間に過ぎ、昭和三十二年に卒業し、兵庫県公立学校採用試験を受け三十三年四月、千種中学校西河内分校に新卒で赴任した。辞令を受け取る時に西播教育事務所で言われた言葉を今でも忘れない。

「女の教師は要らん。六十点でも男がいい。名簿に登載されているから女でも採らねばならん。女は要らん。男の教師が欲しい。」

今なら即パワーハラかセクハラであるが、本人の面前で堂々とはつきり宣言された。そんな時代に女教師になつた。

三年後、三土中学校に転任した。その翌年、昭和三十六年一月三十日、浮浪者の失火によつて三土中学校は全焼した。消防車で駆けつけて燃え上がる校舎を見上げながら、涙が止まらなかつた。

焼失した校舎に代わつて小学校の校舎と町役場の二階を臨時の教室にして一年間授業した。その時の卒業生たちは今でも時々会つてゐる。しかし、かつての三土中学校も統合されて廃校になり既にない。翌昭和三十七年に尼崎市へ転任した。以来三十年余、中学校教師を続けた。

大震災から「姫路文学」へ

教師は性に合つていたが、夫の退職に合わせて一九九四年に教師を辞めて姫路に転居した。

翌年一月十七日、阪神淡路大震災が起つた。友人・知人や教え子たちの多くが罹災したが私だけが難を逃れた後ろめたさのためかしばらく鬱状態になつた。

そんな状況の中で震災詩集を出した。タイトルは「陽を食む」である。

退職と同時に復刊した「姫路文学」に夫と二人で参加した。彼はペンネームで従来通り詩を書き、私は小説を書いた。以来二十年、それぞれがそれぞれの書齋で思う通りの人生を生きた。

「姫路文学」の先輩同人たちもみな集まつて切磋琢磨しながら雑誌は順調に刊行されて私たちには新しい生活にも次第に慣れて豊かな時間を過ごした。同じ年の夫と私は心中密かに張り合いながら作品を創作したので出来栄えもまずまずだった。そのうち作品が溜まると几帳面な夫は次々に作品集を出版して評価を得たが、私はぐずぐずと先延ばしにしていた。持ち時間はまだたっぷりとあると当時は愚かにも錯覚していた。それに、二度死に損なった私は、なぜか生に対するがむしゃらな執念とか執着といったものが希薄だったのかも知れない。日々が楽しくラクチンに過ぎればよかったです。

そのような二十年余りが過ぎたある日、元気だった夫が病に倒れ、一週間ほどで逝ってしまった。

私は深い喪失感に襲われて度を失い、後悔と懺悔にうちのめされた。そしてある日、突然、我に還った。

そして二年後、「作品集を出そう」と決めて書き溜めた小説を整理して版元に手渡した直後病が襲つた。

二〇二〇年、脳梗塞で左半身が麻痺して歩くことができなくなり、即入院、リハビリの結果、何とか命拾いして歩けるようになり、無事に日常生活は過ごしているが、独居・自立は叶わず、ケア付き老人施設に入居している。

私のいるマンションはみな老人である。平均寿命通りにほとんどが女性で男は滅多にいない。老いてなおたくましく元気な彼女らを日々目にしながら、「本当に彼女らは得心して生きているのか」などと自問する。

超高齢化社会を迎えて老人ケア施設は次々と建立されている。十分とは言えないまでも制度化もされている。一見、老人たちは生活の危険性から保護されケアされて安全に暮らしているようである。しかし、人間が生きて在る意味はそれだけなのだろうか。

最後に

一人娘は京都で家庭を持ち、公認心理士・臨床心理士として働いている。娘の配偶者は大学で教えている研究者である。孫たちは間近に迫った大学受験共通試験に備えて頑張っている。

昭和・平成・令和と三つのいわば動乱と激動の時代を生きてきて、振り返れば昨年、令和二年は年初から新型コロナウィルス感染症が世界を席巻した。この大災厄コロナ禍が終息すれば多分、世界の力学は大きく変化するだろう。そして私たちの日常は確実に変わる。

故郷には甥たちが元氣で暮らしているし、妹たち一家も頑張っている。

「ふるさとは遠きにありて思うもの そして悲しくうたふもの よしやうらぶれて異土の乞食かたいとなるとても 帰るところにあるまじや」と室生犀星はうたつたが、私にとっては

ふるさとは変わらぬ山河と多くの懐かしい人々があり、手に触れるほどにも近くの西の山々に、赤々と沈む夕陽を思えばおのずからこころが震える。十五歳まで私を慈しみ育んでくれた土地である。

「まことに故郷はありがたきかな」の一語に尽きる。

略歴

昭和9年12月	宍粟郡菅野村に生まれる
昭和24年	菅野中学校卒業
昭和32年	関西学院短期部卒業
昭和33年	千種中学校西河内分校に赴任
昭和36年	三土中学校に転任
平成5年	尼崎市公立中学校退職
平成23年	姫路文化賞受賞
平成23年	姫路市芸術文化年度賞受賞
令和2年	「姫路文学」が姫路市芸術文化賞を受賞

著書

詩集「メビウスの輪」「メトセラの村」ほか3冊
小説「空を舞う手」「花費」「クロノスの庭」
エッセイ「無象つれづれ」 評論「椎名麟三」他

つくつくぼうしの会詠草

鬼灯は法好きだよと教わりし祖母を
想いてキューと鳴らしぬ
額縁に入れたき月がまなかいの厨の
窓に映りくださる

杉本 幹子

木枯らしにそれぞれの秋通りすぎ身
にも心にも冬の身支度
初春や南天葉ばたん生けこみてコロ
ナ終息ひたすらに待つ

上垣 勝子

冬空を突き刺すごとき若枝に寒紅梅
の蕾ふくらむ
霜柱立つ畠土にうずくまるよう白
菜花芽をつつむ

三木 富子

黄泉路いまコロナの死者の溢れるむ
五臓六腑の日々覚束かな
「逆さ別れ」と詠みてやさしき歌に
逢う逆縁と言ふより哀しき

栗山 節子

新樹会詠草

あれこれと機械の声に指示されてあ
あ氣忙しきセルフのレジは

だれ呼ぶや堂鳩の声の哀しげに病み
て伏す今朝心にしみる

新井 慶子

拾ひたる栗のふた粒てのひらに秋に
ぎりしめ帰り来りぬ
家の中の物みな古りて子の写真たん
すの上にありて見飽きず

安東はづ子

手づくりの老人向けの惣菜を二品三
品並べし八百屋

二、三人客の溜ればいつしかにサロ
ンになりし裏店の八百屋

衣川有賀子

起き掛けの枕にすっぽりふとん掛け
夢のつづきを見てゐるやうに
引退会見見さはやかにせし安美錦なつ
ぱ服着て通路番する

栗山 節子

白萩もみやぎ野萩も咲き初めて深ま
りて行く秋の足音

栗山 節子

起きぬけに花がら摘みをして居れば
黒猫北より戻りくるなり
朝食を食べつ夫は独りごつ「今日
も忙し歯医者に外科に」
赤とんぼこの竿の先が好きなのかい
洗濯物を干したいのぢやが

佐々木タエ子

「こんなこと初めて」と応ふ被災者の
眼は虚ろに跡地を追ひぬ
ところ得ていのちを結べ孫の吹く空
に流るるたんぽぽの絮

門積 健三

宍粟市やまさき文化大学

短歌部詠草

竹箒の先より逃れゆく枯葉しばらく

風とあそばせておく
忖度は人の世のこと陽の射さぬ影ら
の雪はしかと消残る

岡本 光代

つまづきてころびし因の道の辺のわ
れを笑うやコスモスの花

森元 満子

秋来れば里の誇りのもみじ山 心に
棲める夫と登らん

山崎 智絵

翔猿という名の力士名に負けず土俵

をわかし秋場所終わる

福元千代子

御堂より読經漏れ来る鶴林寺ほのか
に君の香りながれ來

草刈りのわれにおやつと甘柿を山盛

りくれし白髪の嫗

八十半ば在るは厚顔老ひのかほど
にもならずザブザブ洗う
難聴の耳にとどかぬあなたの声に少
しうなづきほほえみ返す

安東はづ子

八十半ば在るは厚顔老ひのかほど
にもならずザブザブ洗う

八十半ば在るは厚顔老ひのかほど
にもならずザブザブ洗う

栗山 節子

八十半ば在るは厚顔老ひのかほど
にもならずザブザブ洗う

森本萬千子

八十半ば在るは厚顔老ひのかほど
にもならずザブザブ洗う

栗山 節子

俳

句

山崎俳句協会

福知渓谷へ秋の吟行
十一月九日

青嶺句会 田 中 良 子

今年は「新型コロナウイルス」の関係で、吟行も躊躇したものの、秋の散策を楽しもうと言う事で、宍粟市の福知渓谷へ行きました。

十時山崎を出発し晩秋の揖保川に添いながら山々の彩りが少しづつ変化してゆくのを車窓より眺めながら、車中は心弾みてまるで遠足気分です。予定の地に到着する。

山は悠然として、あかあかと燃え、私達を迎えてくれた。

・渓谷に添ふて錦の濃ひ紅葉

チエノ

・もみじ葉の短き命燃えにけり

とみこ

・渓流も細りて山は眠る準備

良子

向い山へ小さな吊り橋を焼きながら渡るとそこには、

・吊り橋や迎えてくれし冬さくら

美保子

閑散としたキャンプ場の辺りに、

私達を優しく迎えてくれる冬桜。

可憐ながら愛おしさを感じる。

そして今日の楽しみの一つでもある食事処へ。

・吟行は木の助御膳秋仕立

幸子

・秋ざくら宿の亭主の笑顔かな

ゆき

・深みゆく秋のいろり火色したし

緑山

・山里の珍味に満足しながら本番の、

句作に入る。

秋はつるべ落しと言う中帰る準備に焦りが出る。選句はどうしても

「当日」にしたいとの意見もあり、

運転手さんにもご協力をいただき、

暖かいコーヒー茶屋に寄り最終の締めに入る。



203

当日欠席の方の詠草

・刈萱の風鳴る夜や冬に入る

驅雲

・金もくせい我が家の歴史と六十年

久子

・アルバムの母と語りて良夜かな

島本 久子

青嶺句会詠草

・夏燕自由で広く空持てり

・緩やかに欄間を抜ける若葉風

秋久 光子

・大鳥居大冬木威を競いつつ

門積 緑山



青嶺句会詠草

・つくばいに風の波紋や神の留守

若松 幸子

・風の音今日に色増す谷若葉

原田 駆雲

・鬼ごっこいつか相撲に刈田の子

原田 駆雲

・鰯雲コーヒーカップに映える午後

原田 駆雲

・運動会あの鳴き虫がヒーローに

杉山美保子

・小春日や行き交ふ人の笑顔良し

鳥羽チエノ

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

田中 良子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・螢狩り一会の人に声掛けし

田中 良子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・天高し史跡駆け抜く部活生

島本 久子

・変はる世を見すえる大樹冬ざる

島本 久子

・白鷺の舞い降りさうな初湯かな

島本 久子

・

山脈句会詠草

- ・瓶に挿す花華白くくれ残る
古谷 晃子
- ・明日ありと残す長夜の越の酒
京屋 伊助
- ・一人居の母ぎょうさんの梅筵
重田 陽子
- ・小春日や象の姫子は出る気配
清水 省三
- ・楠大樹学舎守りて冬日和
紙屋門時代紡ぐや秋深し
谷口 昭子
- ・老人車止めうなづく夕端居
鳥羽チエノ
- ・酒蔵の長き路地裏片かげり
秋久 光子
- ・今生のこころ少年竹落葉
西田 宣子
- ・掃苔の石に鎮まる夕日かな
富井 幸子
- ・柿たわわ夕陽が染める奥播磨
三浦 ゆき
- ・故郷は峠深き村遅桜
高井 麗子
- ・禍寒し別れも告げず黄泉の人
角野 廉子
- ・寒暮光世の盲冥をてらすなり
岡田 福代
- ・独り居て睡魔に負けた置き炬燄
重田 陽子
- ・ガレージの一握の土ふぐり咲く
澤田 豊子
- ・ああ君はそこに居たのか沈丁花
福元 敦子
- ・一房のぶどうの生命輝けり
角野桂治郎

冬ざるるはやぶさ二号夢乗せて

古谷 晃子

しそう笛ゆり・山崎みやこ句会詠草

金山 英子

・又ひとつ失せ物ふえて冬の霧

・万民の生きる因よすがやまずマスク

・マスク取り深き緑を仰ぎ見る

小田 朝子

・ほくほくの焼芋おどる吾子の手に

・秋耕や乙女操るトラクター

坂井 恵子

・語るうち寝息の母や秋の星

・月光や西行の歌口遊む

重田 陽子

・野仏に二、三輪の野菊かな

・敷つめし銀杏落葉や神の庭

・梵鐘の和む響きや冬日和

・菊の香や耳そば立てる医師の声

・曾祖母の長持蔵を出て師走

・月山に雲なく雁の渡りけり

・補聴器の夫のうなづく花野かな

・鰯雲遠回りして一万歩

・転た寝の愛犬並ぶ炬燄かな

・父作る頬張る子等の豆の飯

・萩原 恵子

・では又ね交した叔母は冬の星

・坂井 恵子

・あの笑顔永久の別れや寒椿

・平形 照美

・わた菓子が空いっぱいに冬の空

・ふうふうと夫と二人のぼたん鍋

・藤野 直子

・かたくなに閉じたる空や花石榴

・網棚に梨かご三つ山陰線

・晚秋の川の輝き過疎進む

・宗平 圭司

・あれこれと忘れたきこと茗荷汁

・山茶花や心知らずの日々重ね

やまとさき文化大学俳句部詠草

・時疫怖じ隅々美しく住まう夏

・露けしやいつも笑みゐる六地蔵

速水美知代

・かたくなに閉じたる空や花石榴

・あれこれと忘れたきこと茗荷汁

・山茶花や心知らずの日々重ね

里見 和樽

金谷四号墳と

五号墳について

（金谷古墳を守る会）
山崎郷土研究会
片山昭悟

宍粟市山崎町金谷は、「播磨国風土記」の比治里内にあり、歴史的にも古く、古墳が多くあります。兵庫県指定文化財（史跡）の金谷山部古墳や湯船口には金谷群集墳（三基）のうちの金谷一号墳から奈良時代の鏡瑞雲双鸞八花鏡（径十一センチ）が出土しています。

昨年湯船池の改修工事に伴い金谷三号墳については、事前の立会調査で保存する確認ができました。曾谷池近くの法師ヶ谷には、金谷四号墳と五号墳があります。四号墳から五十年前の昭和四十六年（一九七一）十月十八日に七世紀の須恵器（壺）が出土しています。かつては約十二メートルの円墳でありましたが、昭和五十二年（一九七七）の工事で古墳の上層部が削平されました。九月より曾谷池改修工事で大型車が通ることから、金谷古墳を守る会として西播磨県民局に古墳を保存し



古墳を守る会 4号墳の立札

被葬者はおそらく比治里の山部氏で、関連する人であろうと思われます。規模から七世紀の飛鳥時代の古墳で、には出土した須恵器や横穴式石室の

トールの円墳と分かりました。時期的には石室が残存していませんが、墳丘の裾が残っていることから約十メートルの円墳と分かりました。五号

墳は石室が残存していませんが、墳丘の裾が残っていることから約十メートルの円墳と分かりました。五号

要望しました。市教委は四号墳の発掘調査を実施し、横穴式石室がみつかりました。このため四号墳は、西播磨県民局が特別に工事の設計変更をしましたし、その東へ約五十メートルのところの金谷五号墳とともに保存されることになりました。五号

要望しました。市教委は四号墳の発掘調査を実施し、横穴式石室がみつかりました。このため四号墳は、西播磨県民局が特別に工事の設計変更をしましたし、その東へ約五十メートルのところの金谷五号墳とともに保存されることになりました。五号

十二月二日には自治会のご協力で古墳の案内板を設置しました。なお、古墳の地からは国見山を背景に城下平野や揖保川、川戸の山々

が一望できます。金谷の古墳を守り続けて五十年になります。これからも次代に伝えていくたいと思っています。

金谷の古墳を守り続けて五十年になります。これからも次代に伝えていくたいと思っています。

一期一会を大切に

宍粟市茶華道協会

中田朝代

去年からのコロナの影響は、大きく私達の暮らしを変えてしまいました。お茶、お花の世界でも、茶会、花展、すべて中止となり、遠方へ出かけて行くことも、ままならない様になってしまった。しかし、時間はゆっくり持つことができ、自身を返り見る大切な期間となりました。何事も勉強と思い、与えられたこと

は参加し、学んでまいりました。そして、伝えていくことが道を志す者のすべき事と思い、歩んでまいりました。ですが、まだできていません。

現在、コロナ禍で、お休みですが、姫路城「好古園」には双樹庵という茶室があり、毎日呈茶があります（年末年始は休）。主に観光客が対象であり、私達も年に一回か二回当番をさせていただいております。一般市民の方々も、散歩の途中に寄ってこられます。龍野公園の聚遠亭でも、土日は呈茶がなされています。もちろん、春、秋は大茶会です。

宍粟市におきましても、歴史もあり、美しい自然に恵まれた町で、誰もが楽しみ親しんで、一期一会の衣服をいただける機会を多く作ることが出来たらと思います。そこにさまざまな文化、芸術を共有することができたら、更に楽しみが増えるのではないかでしょうか。この先一服のお茶をいただくことが今迄の様式とは少し変わっていくかもしれません、出会いを大切に精進してまいりたいと思っております。

我人生を顧みて

新潮会
宗接和人

新潮会、前会長岸本義明氏の「出会いに感謝」を拝読して、私の出逢いはどうだったのだろう、おぼろげな記憶を辿りつつ思い起こしました。甘えん坊の幼年期、遊び盛りの少年期、少し勉学・スポーツに目覚めた青年期、仕事に燃えた壮年期、会社の代表としての責任ある中年期、それぞれの立場での色々な人と出会う、特に人生における一番大切な責任のある壮年期の出会いが、人生を大きく変えると考えます。人生は順風満帆な出会いばかりではありません。若い頃の私は、嫌な出会いは避けて通り、気の合った者同士の出会いで過ごしていました。私に意見する人、苦手な人は避けて過ごし、石意氣な若僧でした。人の意見に反発もし、そんな私でも、時が経つて段々と角が取れ丸くなり、その頃のことが懐かしく思い出されます。

若い頃は、仕事も我武者羅に遊びも中途半端じゃなく過ごしていました。そんなある日、ある本に出会い

ました。人生の師匠とは、人間的に尊敬できる人、実績を残している人、自分という人間の器の可能性を広げていくには、自分の苦手な人、自分が嫌いな人、自分が許せない人。

これらを師匠とすることが一番であり、自分の価値観の外にいる人が自分の可能性を広げてくれる人である。と書かれています。観世音菩薩は三十三化身となって私達を導いてくださると言われています。苦手な人は観世音菩薩の化身です。化身から逃げるのではなく、この人は何を私に教えて下さるのかな?こういふ風に思うと、自分の至らなさに気付き、自分はもっと言い方や、態度に気を付けよう、など知らないうちに勉強させていただき成長させて頂いたように思います。

相手を変えるのではなく、自分が変われば相手の素晴らしいしさが見えてくる。これを鏡の法則として行えば自然と人生が楽しく過ごせるようになりますと思つております。

また、今回コロナ禍の影響で巡行が中止された京都の祇園祭は、貞觀十一年(八六九年)、当時大流行した疫病払いの為に始まったとされていますが、その祇園祭で毎年巡行の先

能楽と邪氣 疫病祓い

山崎謡曲同好会
三 谷 恭 三

令和二年が始まって間もなく新型コロナウィルス感染症が世界中を席巻し、今なおその収束がいつになるのか見えない現状ですが、能楽にはこのような邪氣疫病に起因する演目がいくつかあるのをご存じでしょうか。

例えば中国の昔、楊貴妃の病を心配した玄宗皇帝にまつわる能楽『皇帝』やその邪氣の元となる『鍾馗』、あるいは太宰府に没した菅原道真の怨靈を描いた『雷電』や、源頼光の逸話を題材にした『土蜘蛛』『大江山』『羅生門』等が有り、いずれもそのむかしに人々を苦しめた邪氣疫病退散を願ったことによるものと考えられます。

宗近が自身の娘の病氣平癒の祈願に奉納したのが長刀鉾の由来とされており、邪惡を祓い疫病を退散させる願いがそこに込められています。

ひるがえって現在、人類はコロナ禍で多くの人々が亡くなり、医療に携わる関係者は大変な努力を強いています。ここは一日も早く現代の大長刀ともいえるワクチンや特効薬が世の中に行き渡り、以前の平穏が戻ることを祈りで待ち望んでいるのは私だけでは無いと思いま

頭をつとめる長刀鉾には、鉾頭に疫病邪惡を祓うための大長刀が飾られ、巡行中にはその鉾先が御所や八坂神社に向かないよう取り付けられます。この大長刀は、当時の名高い刀匠であった三條小鍛治宗近が鍛えたものとされ、現在は秘蔵されており、巡行にはレプリカが使用されています。

能楽『小鍛治』はこの三條宗近を題材とした演目で、一条天皇の命を受けた宗近が、稻荷明神の精霊の助けを受けて見事な銘刀「小狐丸」を鍛え上げるという内容です。この

音楽の力

宍粟市少年少女合唱団

塚 田 美 紀

みなさん「しあわせ運べるよう」
という歌をご存知ですか。

阪神、淡路大震災が起きた一九九五年に神戸で生まれ、今でも大切に歌い継がれている曲です。東日本をはじめ日本各地、そしてさまざまなくの言葉に翻訳され海外でも歌われ、たくさんの人々が励まされている曲です。この曲は神戸市内の小学校の音楽専科教諭白井真先生が自宅が全壊し、親戚の家に身を寄せながら避難所になっている小学校でみなさんのお世話をされ、自分が生まれ育った神戸の街の変わり果てた姿をニュースで見てわざか十分で書き上げられた曲です。臼井先生が音楽を通してやさしさや心の痛みのわかる子、目に見えない物の美しさのわかる子、さまざまなことに感動して涙を流せるような子になつてほしいとの曲を子どもたちに指導されてきました。私も同じ気持ちで毎年この話をして

子どもたちと一緒に歌っています。

この曲はたくさんの人々の心の支えになり、励ましになり、時には傷ついた心に寄り添いやすらぎを与えてくれました。これは音楽の力、歌の力です。

コロナ禍の今私は無力です。何も出来ない自分を嘆いてばかりいました。しかし、ある日音楽室でマスクをつけ一所懸命に歌う子どもたちの声は小さいけれどしっかりと前を向いた声でした。ハッとした私は合唱団も練習を再開しようと思い、保護者のみなさんにお願いし試行錯誤して歌えるマスクを作りました。久し

ぶりに練習に参加した子どもたちの声は一からのスタートでしたがコロナ禍の小さな希望でした。どこでも歌えない中、文化会館から声をかけて頂きコンサートをするところまでこぎ着けましたが、残念ながら延期になつてしましました。「しあわせ運べるよう」で励ましてもらつたように今は肅々と練習をし、皆様に

歌声が届けられますように。

コロナ禍中に おいて思う事

山崎詩舞道連盟
賀道流篠の丸吟詠会

清 水 賀烽博

私は吟道賀堂流篠の丸吟詠会に入会させてもらつて十数年になりますが、当初は、会員の皆様とワイワイ、ガヤガヤと触れ合う事ができればいいかなという不純な動機から入会させていただきました。しかし昨年三月から国内はもとより、世界中において新型コロナウイルスの感染が拡大し、その防止のため詩吟の大会及びイベント等についてはほとんど中止され、また、宍粟市山崎文化協会主催の「春の芸能祭」、山崎文化会館主催の「秋のふれあい文化祭」も中止とされました。また、会員の皆様ともふれあいの場を延期せざるを得なくなりました。このような事態が起る事は想像もしませんでした。

ここに引用させていただく事はおこがましい事と思いますがこれらの事を胸に刻み、いつの日かコロナ禍も終息すると思いますので、それまでは今できる事（腹式发声法による詩吟の練習）を一步一步進めながら精進し、また、大会などに参加できるようにと思います。

このような状況下において今思う事は、吟道賀堂流近畿本部の初代会長の「吟の心」にある一節に深く感銘を受け今後、そのように過ごしていかればと考えております。

・吟の道は忍である この道は怒り克服する。

・吟は行である 生の終わるまで続く。

・命は天にある 易々として従うのみ。

ここに引用させていただく事はおこがましい事だと思いますがこれらの事を胸に刻み、いつの日かコロナ禍も終息すると思いますので、それまでは今できる事（腹式发声法による詩吟の練習）を一步一步進めながら精進し、また、大会などに参加できるように思います。



日頃、詩吟教室で練習する時、詩吟を吟じるときは腹式发声法にてお腹の底から大きな声を出すよう指導されておりますが三密を避けるため、今のところ教室での練習を控えられ

さつき民踊 グループの足跡

さつき民踊グループ

西川慶子

プの宝です。これからも続けていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症になまされ「春の芸能祭」が中止、すべての行事が中止、こんなさみしい年は初めてです。早くすばらしいワクチンができ皆様と元気で明るく楽しめる日が来る事を祈っています。



絵との出会い、そして

宍粟美術協会

西江美恵子

み優しいタッチや色使い等は、私はまねできません。ステンシルや布の貼り絵、花や動物の水彩画等々、工夫いっぱいの絵はがきをいただき、それは二十年余りで三百三十枚になります。

寺本三枝子さん。一番長く一緒に教室に通っていました。子供の表情や花の絵などは抜群です。長年美術協会のお世話いただき、行動力と挑戦する姿勢がいつまでも若々しく、かっこ良い生き方は私の目標です。

教室の先生が亡くなり、仕上げまでもつていけずに行き詰まってしまつた時も、何度もアドバイスをいただき、常に引っぱってもらっています。

頼つてばかりです。
今は、寺本さんと新しいグループで、福岡先生の指導を受けています。そこでは、会員の皆さんのが迫力あるすごい絵に感動し、刺激を受けています。私も今までと違った絵にチャレンジする意欲がでてきました。今、レンジする意欲がでてきました。今は恵まれた環境の中で、楽しく絵が描けることに感謝しつつ、精いっぱい頑張っていきたいと思っています。

西尾正子さん。山崎から佐用、鳥取へと引っ越されてからも、教室に通つてこられていきました。夢見る少女人のようにメルヘンの世界に入り込んでしまつた。今は、福岡先生の指導を受けています。そこでは、会員の皆さんのが迫力あるすごい絵に感動し、刺激を受けています。私も今までと違った絵にチャレンジする意欲がでてきました。今は恵まれた環境の中で、楽しく絵が描けることに感謝しつつ、精いっぱい頑張っていきたいと思っています。

坂東寿賀幸（岸本幸子）先生の指導のもと、いつでもどこにでもボランティアに行けるように心掛け、週一回の練習に力を入れ頑張っています。現在会員八名ですが、このように長く続けていけますのは、寿賀幸先生と会員のコミュニケーションがいいからみんな仲よしからと感謝です。会員八名はさつき民踊グループ

れとともに、会員の顔ぶれも変わりつつ、変わつてないのは設立してから四十二年、週一回の練習はほとんど休みなく、みなさん参加され、私も続けています。

さつき民踊グループです。

昭和、平成、令和元年と時代の流れとともに、会員の顔ぶれも変わりつつ、変わつてないのは設立してから四十二年、週一回の練習はほとんど休みなく、みなさんが参加され、私も続けています。

昭和最後の十年間ボランティア活動は一年に五回程度でした。平成になりだんだんとボランティアの回数が多くなり、平成十五年からは一年に十三回以上のボランティア活動を今日まで続けています。

坂東寿賀幸（岸本幸子）先生の指導のもと、いつでもどこにでもボランティアに行けるように心掛け、週一回の練習に力を入れ頑張っています。現在会員八名ですが、このように長く続けていけますのは、寿賀幸先生と会員のコミュニケーションがいいからみんな仲よしからと感謝です。会員八名はさつき民踊グル

ープの宝です。これからも続けていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症になまされ「春の芸能祭」が中止、すべての行事が中止、こんなさみしい年は初めてです。早くすばらしいワクチンができ皆様と元気で明るく楽しめる日が来る事を祈っています。

私が油絵を描くようになって、三十年近くになります。絵がきっかけで年齢や職業が違う多くの方々と知り合うことができました。中でも絵画教室で、出会った三人の先輩の影響は大きかったです。

宮脇美智子さん。ミセスのモデルさんのようなアクセサリーや洋服の着こなし、その芸術家風の全く生活感を感じさせない粹なおしゃれ。その上、アカぬけした絵のセンス。その頃、県内各市町の公募展で、ほとんど上位の賞をとつておられて、絵を描きはじめたばかりの私からみて、遠い憧れの存在でした。

油絵をやめられてからも、墨画、書道、大正琴等も一流の域まで極められています。現在会員八名ですが、このように長く続けていけますのは、寿賀幸先生と会員のコミュニケーションがいいからみんな仲よしからと感謝です。会員八名はさつき民踊グル

若西神社獅子舞 保存会の現況

山崎郷土芸能保存会

牲 川 敏 史

若西神社獅子舞保存会は、伝統文

化の継承、保存を図るため現在の保存会として結成されて以来、今年で四十年となります。

構成人員は、青木自治会八隣保から各隣保で代表者一名を選出し、その中から会長一名、副会長二名、会計一名、理事四名を決定します。任期は三年です。そして宮繕（諸道具の作成の指導者）一名、太鼓の指導者二名、奴（やっこ）の指導者二名、笛六名、太鼓（小学五年）四名、奴（小学三年）四名、その保護者八名、獅子連中十七名、自治会役員十一名、三役の奥様三名、（年によって小学生の人数は前後するが）総勢六十六名です。

活動は七月中頃に役員会を開き準備をし、八月中頃から稽古を始め十月の秋祭り、十一月の西小ふれあいフェスティバルまで、土、日曜日をのぞき毎日稽古をします。役員は當

稽の指導の下、稽古用道具の修理、本番用道具の作成をします。自治会役員（隣保長）は、交代で飲み物、お茶の出し入れ、準備をします。

この様に、若西神社獅子舞保存会は自治会によって支えられ、青木自治会には無くてはならないものになっています。

私は二十三年間獅子連中として、

獅子を舞わし、教え教わりながら続けて来ましたが、三年前に奴の指導者が他界されたので代役として指導者になっています。子供に一から教えて行く事がここまで大変な事か……。

もちろん獅子舞の稽古も体力的に大変で、和式のトイレに屈む事ができないほどで、稽古を休む事もたびたびでした。しかし指導者になると休む事もできず、他界された指導者の方は結成から三年前まで三十七年間も続けられていたことに対して、本当に頭が下がる思いです。

今後はどこの獅子舞保存会も同じ事だと思いますが、獅子連中の高齢化保存会の存続に関わる課題であると考えています。

宍粟の碁に 育てられて

山崎囲碁同好会

片 山 愛 弘

私が囲碁に出会ったのは十六歳高校一年の時でした。あれから数十年

が経ちましたが、当時のことは今でも鮮明に思い出します。高一の秋の文化祭の囲碁将棋同好会から誘われて入部し、顧問の鍛治弘先生から囲碁の奥深さを学び、どんどん囲碁の魅力に引き込まれていきました。

学校の帰りには毎日碁会所通りをし、帰宅は十二時を過ぎるほど囲碁の虜になっていました。

二十二歳の時でした。それまで独学でしたが、関西棋院宍粟支部長の高野圭介氏に声をかけていただき、師事することになったのは幸運でした。守拙会や関西棋院宍粟支部に入会し高野師匠から囲碁を鍛えていた。守拙会や関西棋院宍粟支部に入りました。ちょうどその頃、全国青年大会の囲碁の部で優勝できたことは大きな喜びであり自信につながっています。

一方、高野師匠は関西棋院宍粟支部十周年記念の記念誌として五百余ページに及ぶ『宍粟の碁』を出版され、宍粟の碁ここに有りと広く世間に喧伝された功績は強大なものでした。私も何かお手伝いすることはないかと考え、有志と共に子供囲碁教室を開設し五年程続けましたが、仕事との両立が難しくそのまま子供たちも趣味が多様化するなかで集りが悪くなりました。つくづく若者を育てることは難しいと痛感した次第です。

今は、この同好会や囲碁所で年配の者同志で対局し楽しむ日々です。時代の流れで今やパソコンのネット対局や、囲碁AIと対局することも可能ではありますが、やはり人と人が顔を合わせて対話をしながら対局するのが一番楽しいですね。ところがどうでしょう昨今のコロナ騒動で世間の様相は一変してしまいました。囲碁の世界も例外ではありません。外出自粛、三密回避などなど多くの碁仇きと対局したくともそうはいえなくなりました。このコロナ禍が一日も早く終息することを願うばかりです。

自分のためが 人のために

宍粟和太鼓アーツ俱楽部

藤永幸正

私が和太鼓を始めたのは三十八歳の時でした。始めるにあたっては、決して若い年齢とは言えませんでした

がこの宍粟で伝統文化に触れ、自分自身を奮い立たせるくらい表現したい！と思い勇気をふりしぼって入会したのを覚えてます。しかし現実は厳しく、初めは全くメンバーについていけず苦労の連続。体はボロボロ、正直言って苦しみのほうが強く、いつも悩んでいたように思います。でもこれまで「辞めたい」と思ったことは一度もなく、和太鼓を続けていくことでそれに伴う体づくりや精神面での強さが備わってきたように思います。気が付けば和太鼓を始めてから十五年が経過し、今では子供教室から大人まで会員数は、百名を超えるまでになりました。

毎年宍粟和太鼓フェスティバルを開催し、数回実行委員長を務めさせていただきましたが、本当にいつも



たくさんの方々に来場していただき感謝いたしております。その中で皆様から「感動した」、「元気や勇気が出る」「あんたらの太鼓ええな」などたくさんの感想をもらえるようになりました、これまで自分自身のためにやつてきた和太鼓が、人に喜んでもらえる和太鼓になっていることを知り、

今後もこれまで以上に頑張らねばと気づかされました。しかし今回は、コロナ情勢に伴い開催はできません。また、全国的にも感染拡大の恐れがあり教室そのものも一旦休止となってしまいました。会員全員がシヨックでぱっかりと穴が開いた感覚ですが、この現状はしっかりと受け止め、決してあきらめることなく前を向いて今後のことを検討していくたいと思っています。また皆様とお会いで思っています。また例会と会員旅行、家族会を予定していますがコロナの為に見通しがたまん。情勢を見て活動していくたいと考えております。

開店休業　コロナとの闘いの中で

昭和会

安井克典

令和二年の昭和会は正に開店休業

たくさんの方々に来場していただき感謝いたしております。その中で皆様から「感動した」、「元気や勇気が出る」「あんたらの太鼓ええな」などたくさんの感想をもらえたことがあります。そこで令和二年の忘年例会、三年の新年例会は中止といたしました。令和三年の行事については、毎月の例会と会員旅行、家族会を予定していますがコロナの為に見通しがたまん。情勢を見て活動していくたいと考えております。

一日も早いコロナの終息を祈念いたします。

令和二年の中心行事、月例会は一月には伊沢の里にて総会を行い、二月には福元市長様、西嶋地域創生課長様を講師とし、「宍粟市地域創生総合戦略について」と題して勉強させていただきました。三月には予定していた山崎警察署長様からの講話はコロナ情勢悪化により中止となり、四月の例会、五月の親睦旅行も中止となりました。

六月には会員山下直昭氏の「目から鱗」、七月には作家伊吹昭先生の「赤松円心について」お話を聞きました。

九月例会は当会のメインイベント家族例会で「オカリナ綺羅星」によるオカリナ演奏会を催しました。



コロナ禍に想う

平成会
本條昇

日頃は平成会の活動に格別のご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

当会は、会員相互の親睦と研鑽を図り、以て地域の文化的発展に寄与することを目的に、例年、硬軟織り交ぜた多様な事業を重ねています。然るに昨年は、新型コロナ感染防止に努め、四月以降の例会を自粛せざるを得ませんでした。一日も早く再び平穀な日常が戻ることを願ってやみません。

今般のコロナ禍では、世界の感染者は累計九千万人超、死者は二百万以上（一月十三日現在）にのぼっています。当市に於いてもクラスターが発生し百名を超える感染が報告されました。罹患された方々には心よりお見舞い申し上げ、早期の快復をお祈り致しますと共に、困難な現場で尽力されている医療・保健関係各位の献身には満腔の敬意を表し、感謝

を申し上げる次第です。

過去数十年、我欲に駆られて豊かさを追求してきた人類は、ここに来てその副作用とも言える試練に直面しているように見えます。地球温暖化に伴う異常気象が惹起する自然の猛威はその最たるもので。我が国

でも近時、五十年に一度と言われる豪雨災害が毎年のように頻発しています。

が、俯瞰してみるとそれらも単なる大気現象に過ぎず、「災害」とは人間本位で付されたレッテルに他なりません。

コロナ禍もそんな災害の一つと言えます。ウイルス自体は自然界の一部であり、それを取り込んで世界的パンデミックに至らしめたのは、むしろ経済活動を軸とした人間の営みででしょう。そう考えると、人類にとって「コロナとの戦争」とは、実は自らの飽くなき欲との闘いなのかも知れません。

中学校三年生の終わり頃には、「尺八を習いたい！」と思い、いつもお稽古をするときに来ていた辛川さんが、辛川さんに相談し、「高校が決まつたら」と言う条件でOKしてくださり、今こうして、お琴と尺八をさせていただいています。

ウイズコロナの時代、地理的規模で蔓延した「欲望の資本主義」を如何にコントロールできるか、そんな問い合わせが突きつけられているような気がします。

過去数十年、我欲に駆られて豊かさを追求してきた人類は、ここに来てその副作用とも言える試練に直面しているように見えます。地球温暖化に伴う異常気象が惹起する自然の猛威はその最たるもので。我が国でも近時、五十年に一度と言われる豪雨災害が毎年のように頻発しています。

が、俯瞰してみるとそれらも単なる大気現象に過ぎず、「災害」とは人間本位で付されたレッテルに他なりません。

コロナ禍もそんな災害の一つと言えます。ウイルス自体は自然界の一部であり、それを取り込んで世界的パンデミックに至らしめたのは、むしろ経済活動を軸とした人間の営みででしょう。そう考えると、人類にとって「コロナとの戦争」とは、実は自らの飽くなき欲との闘いなのかも知れません。

中学校三年生の終わり頃には、「尺八を習いたい！」と思い、いつもお稽古をするときに来ていた辛川さんが、辛川さんに相談し、「高校が決まつたら」と言う条件でOKしてくださり、今こうして、お琴と尺八をさせていただいています。

ウイズコロナの時代、地理的規模で蔓延した「欲望の資本主義」を如何にコントロールできるか、そんな問い合わせが突きつけられているような気がします。

お琴と尺八を始めた事、きっかけ、苦しかった事、楽しかった事

山崎邦楽の会
琴泉菖蒲会

でよく酸欠気味になつたり、お琴も思うように弾けなくて多少は悪戦苦闘しますが、お琴も尺八も自分がしてたくて始めたので、毎週楽しく練習しています。

池垣 愛来
松本 沙良
小椋 結衣

小学校六年生の時に、学校でお琴と尺八を体験する授業があり、その授業がとても楽しく、授業が終わつた後「お琴を習ってみたい！」と音楽の先生に相談し、そこから授業を教えてくださいました。琴泉菖蒲会に入りました。

中学校三年生の終わり頃には、「尺八を習いたい！」と思い、いつもお稽古をするときに来ていた辛川さんが、辛川さんに相談し、「高校が決まつたら」と言う条件でOKしてくださり、今こうして、お琴と尺八をさせていただいています。

私はこの六年間で一番嬉しかったのは、私たちの演奏を聴いた祖母が感動して涙が出そうだったと言つてくれことです。皆で一所懸命に練習に取り組むことで、たくさんの人間に感動を届けられるんだと自信につながりました。「一人一人が真剣に練習をして、他の人の演奏に耳を傾けないと、綺麗な演奏は出来ません。

すごく難しいことですが、だからこそ綺麗な演奏ができると、嬉しさと達成感に満ち溢れます。そしてまた頑張ろうと思うことができるのです。

私たちもお稽古をするときに来ていた辛川さんはこの六年間、上手く演奏できず悔しい思いをしたことも多くありました。しかし、ここまで続けられたのは、やはり、お琴や尺八、そして琴泉菖蒲会が好きだからです。

今まで、私たち三人を指導して支えてくださいり、本当にありがとうございました。

お琴は約六年間、尺八は約三年間続けていますが、つらいことはあまりないです。ただ、尺八は音を出すこと自体が難しく、肺活量もいるの

私と踊り

山崎日本舞踊の会

岸本幸子こと
坂東寿賀幸

二〇二〇年は新型コロナウイルス

の話題が多かった一年でした。この

コロナ禍により、私も舞踊教室の新
年会で舞台を務めさせてもらつたき
り踊れていません。オンラインやり
モート等の新しい時代にはついてい
けず、お稽古にも行けず、とてもつ
らい一年でした。

山崎でお稽古を始めたのをきっかけに、私が姫路の舞踊教室に通うようになって二十年くらいになるでしょうか。坂東大蔵という舞踊家の弟子として、それは厳しくも楽しいお稽古の日々でした。毎年一回、姫路文化センターの大きな舞台で踊る機会をいただいていたので、それを目標にお稽古に励んできました。

踊りが命の師匠からは、厳しくもとてもていねいに、そして熱心に御指導をいただきました。「人柄が舞台での踊りに表れる」との教えを胸に、日々精進して心も磨くよう努め

てきました。

舞台芸術は、その時その人しか表現できない優しいものです。師匠もご高齢になられましたが、まだまだ足元にも及びません。師匠の芸に少しでも近づけるようになりたいので、これからも日々精進してまいりたいと思います。



早く会いたい笑顔に

山崎民謡連合会

石田陽子

昨年三月頃～六月頃まで何もかも止まってしまった。一日が長く、ただただ時間がすぎるだけ行事もイベントも訪問もできない。ぶらりと車でドライブ、車から降りる事もなく、人の動きや景色をながめるだけ。

時折りビデオや写真を見ながらなぜか、なつかしく思える場面。

ついこの間のビデオや写真なのに。今年二十五周年発表会を開催する予定にしておりましたが断念。

いつの日か開催できる事を願い粗品を四百個程、自粛期間に手作り。

七月頃から宍粟市にコロナ感染者が出てない事もあり、少しづつ教室を開始。皆さんの元気そうな顔に、笑顔に会えて少しホッとした気持ちになったのも束の間、十一月頃まで、何とか練習だけはできましたが又もや全国的に感染が広まり、宍粟市にもついに……。日に日に増え、心が

こそはいい年になるように祈りながらテレビに目をやるが、どのチャンネルもコロナばかり。この冬はコロナウイルスが喜ぶほどの寒さ、またもや二月七日まで自粛、なんとか収束の声が聞けるまで頑張らなければ……。早く皆さんの大好きな笑い声が……。

笑顔が……。
会えることを楽しみに。



敬老会でのボランティア

コロナ禍での活動

穴粟山崎手作り甲冑の会

小林由佳子

生における地方自治と郵政事業 第八十五回に福元市長のインタビュー記事が掲載されていましたので紹介させていただきます。【江戸時代に

池田輝澄により山崎城が築かれ、山崎町の中心部は城下町として発展し

てきました。そして、最も長く山崎の地を治めていたのが本多忠勝公を

祖とする山崎藩本多家です。近年は

市民の手により「山崎本多まつり」

が開かれ、山崎の歴史や魅力を体験

できる催しとして盛り上がりをみせ

ています。】とあり、私たちの活動

の認知度合いもアップしたことを実

感したところです。コロナが収束し

た時、人々が集える場を提供できる

よう少しづつ準備も怠らずやってい

きたいと思います。

活動の定着と継続を考えたとき仲

間を増やしていく事が求められます。

そのきっかけとして、手作り甲冑づ

くりをスタートしました。各種イベ

ントでの展示・試着体験、各種団体

とコラボしての本多まつりの開催・

武者行列などを通して市外の団体と

も交流が出来、広がりを感じていま

す。【通信 耀（かがやき）】という

冊子の二〇二〇年三月号で、地方創

新型コロナ禍のコーラス事情

山崎町民合唱

中野剛志

スシールドやフェイスシールドのみの使用は避ける。(6)連続練習時間は三十分で空気の入れ替えを行う。飲食はしない。

以上のようなかなり厳格な内容です。

ここで面白いマスクの話題を紹介します。普通のマスクは使いづらいためコーラス用マスクがいろいろ考案されていて興味深いです。東京混雑が予想もつかず、事態の深刻さに気持ちが暗くなります。

全国の合唱事情をみると、愛知、福島、岐阜、埼玉等で合唱練習時にクラスターが発生と伝えられました。練習やイベントが困難となり、全日

本合唱連盟では飛沫実証実験を行つた上、昨年十一月「合唱活動における感染症拡大防止のガイドライン第一版」を発表、練習や演奏会開催のための指針を示しました。希望は感じますが、弱小グループにはハードルが高い内容です。

さて、私たち合唱グループの唯一の発表の場「しそうの森合唱祭」も

昨年に続き二回連続で今年も中止とななりました。当然毎週の練習も中止となつてやがて一年、メンバーは歌

を忘れたカナリアとなり、モチベーション維持が心配な状況にあります。

冬場は寒くて換気できないため、暖かい春を待ちわびているこのごろです。

因みに昨年から温めている曲は

「あなたのことを」「君や忘る道」どちらも切なる愛が込められた歌。歌いたい！早く！

要約すると、合唱練習では①参加者名簿の保存。②体温測定・手指消毒の徹底。③練習会場の椅子や備品の消毒。ピアノは専用クリーナーで消毒する。④練習時は前後一、五m確保、あわせてパーティションの活

二〇二〇年を振り返つて

宍粟市吹奏楽団

山本修示

二〇二〇年は、私達宍粟市吹奏楽団にとって本当に大変な年となりました。その原因はやはり新型コロナウイルスの感染拡大です。これは、おそらく文化協会の皆様も同様かと思います。一月に日本で最初の感染者が確認されてから感染拡大が続き、四月には緊急事態宣言が出されるなど私達の生活が一変しました。私達吹奏楽団も五月三一日（日）に予定していた第九回定期演奏会を一年延期しました。その後、緊急事態宣言も解除され、私達も六月中旬より活動を徐々に再開し始めたわけですが、七月に入り第二波の感染拡大が起こり、そのため出演を予定していたバンドフェスタや数多くのイベントも中止となりました。さらに十一月より第三波の感染拡大が起こり、十二月に予定していたファミリー・コンサート、さらにはそれに替わるものとして計画していたクリスマスコンサートも中止せざる得なくなり、吹奏楽団としての演奏は、一度もできずに



定期演奏会

終わりました。ただ、そんな中で山崎文化会館からのお声かけがあり、宍粟市芸術文化活動団体等支援事業として団のアンサンブルチームが十月一日（日）、山崎文化会館にて『楽しそう？ 楽しもう！ アンサンブル』のコンサートを開催できることは、本当に嬉しい出来事でした。宍粟市文化振興財団や宍粟市、宍粟市教育委員会には心より感謝しています。

今、このように困難な時期ですが、私達はそれでも音楽、中でも吹奏楽を愛好するものとして、今後も仲間とともに活動を続けていきたいと願っています。今後の予定としては、二〇二一年六月二〇日（日）、第九回定期演奏会を山崎文化会館で開催する予定です。まだまだ先行きは不透明ですが、とにかく希望を失わず少しでも今自分達ができるることをしていきたいと思っています。皆様ともに頑張っていきましょう。

山崎・加生・つた いさわ冠句会

中瀬公三選

友ありて	見入る写真に花が咲く	友ありて	お前と俺に戻る宿	宇田幸夫
清清し	出荷を終えた豆の跡	清清し	ぬける青空どこまでも	坂本忠彦
大谷志路	元気で会おう同窓会	古きつきあい永久に	飯塚正浩	
友ありて	昔語れば懐かしく	頑張る力沸いてくる		
清清し	年の暮れ待つ除夜の鐘	雲追いかけてペタル漕ぐ		
内海喜代子	友ありて 長き電話も秋夜長	嶋津千里		
中務淑子	清清し 先ずは自覚の深呼吸	友ありて 古きつきあい永久に		
西家廣子	友ありて 隣も隣も剪定すみ	清清し 心の不安取り除き		
成影玲依	友ありて 過ごした時間濃密な	古きつきあい永久に		
山口定子	清清し 朝の冷たい風通る	雲追いかけてペタル漕ぐ		
三木ひづる	友ありて いつも心の拠り所	嶋津千里		
侑希	清清し マスクはずして深呼吸	友ありて 古きつきあい永久に		
東多津子	友ありて 知恵をいろいろ有難い	清清し 秘せども香るボランティア		
谷笛まや	清清し 今朝の冷えこみ凜として	坂本忠彦		
中瀬公二	友ありて 胸のぬくもりほっこりと	清清し 朝日に向い手を合わす		
友ありて 話は尽きぬ酒の宴	清清し 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 退院の日の空の青			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友ありて 苦節を共に支え合う			
清清し	友ありて 隣も隣も剪定すみ			
清清し	友ありて 長き電話も秋夜長			
清清し	友ありて 古きつきあい永久に			
清清し	友ありて いつも心の拠り所			
清清し	友ありて 知恵をいろいろ有難い			
清清し	友ありて 朝日に向い手を合わす			
清清し	友ありて 明けの明星長水さん			
清清し	友ありて 話は尽きぬ酒の宴			
清清し	友ありて 流るる水に堰ひとつ			
清清し	友ありて 多くの励まし感謝する			
清清し	友あり			

川柳破丸会

長川伸介

一〇一〇年の新語流行語大賞が、
「3密」に決まりました。本来なら、
オリンピック関係の言葉が選ばれた
のでしょうが、新型コロナウイルス
の世界的な蔓延により延期となった
ため、皮肉にもその新型コロナに関
連する言葉となってしまいました。

私たち「破丸会」にも、その時代
の世相や人間模様などを詠んだ句が
たくさん投稿されます。よって、今
年の作品は「自肃」・「マスク」・
「猛暑」などの言葉や、その関連語
を使つたものが多くを占めています。

二〇二一年は、東京オリンピック・
パラリンピックが無事に開催され、
明るい話題の流行語や川柳が、数多
く世に出ることを祈っています。

生田 大思案

寝坊して 昼寝しながら テレワーク
夢に出て まだ喧嘩する 一周忌
通夜の席 次は誰かと 目を配る
シニア語は ほれそれあれで用が足り

谷口 遊倫

目と耳は 自肃了解 口は別
万歩計 自肃を示す 数百歩
もういいかい?飲み会宴会まあだだよ

暑い夏 ビールで予防 热中症
鯛よりも 高い秋刀魚で 誕生会
親のすね かじった俺が 骨ひらい
晩酌も 不要不急で 止められた

岸本 新風

マスクする 目は口ほどにもの言わず
鯛よりも 高い秋刀魚で 誕生会
親のすね かじった俺が 骨ひらい
晩酌も 不要不急で 止められた

谷口 柳幸

限り品 言葉に踊り 無駄を買う
医者行けず 薬切れたら 調子いい
暑くなり 薄着で隠せぬ 緩み腹
寝正月 ベルトの上にも 鏡餅

船元 哲心

寝たふりの 若者座る 老人席

口紅も いらなくなつた マスク顔

顔立てろ 言ってる程の 顔じゃなし

猛暑とは いつても財布は冷えたまま

清水 三省

つい口を 挟んだばかりに 大ごとに
この上は 地球丸ごと 消毒を
チコちゃんに 今朝も教わる 八十才
こぼれ種 芽生えて今年は 孫ビオラ

千本 風篭

乗り心地 良いと思えば 口車
花言葉 知らず贈つて 怪我をする
したいこと あれもこれもで何もせず
立つたけど すること忘れ また座る

安井 楽庵

目・鼻・口 パーツ同じで この格差

知らぬ間に 踊りの輪抜けふたりゆく
七十歳 大器晚成 まだ来ない

アリバイはあつても言えば不利になる

菅谷 美風

手間隙を かけた割には ヘボなすび
テレショップ 後三十分に 惑わされ
コロナ禍で マスクもオシャレのアイ
テムに

嘘つきと 子どものケンカか 国会は

長川 酔伸

外出を 控えて酒の 量も増え

冷え切った 家庭も少し 温暖化

初春や お年玉とて キャッシュレス

中居 絵師

完食の 義務もないのに 食べきつて

歯は抜けて 耳も遠いが 口達者

柄つきの ステテコに代え 若返り

当てはづれ 暑さに強い 新コロナ

嘘つきと 忘劍家

膀胱に 日覚まし時計が ついている

坂東 笑雅

断捨離を 進めてくれた コロナ菌

テレショップ洗脳されではダイヤルし

給付金 速やかに来た 過疎の良さ

過疎もいい コロナ騒動 かやの外

夢に出て まだ喧嘩する 一周忌
通夜の席 次は誰かと 目を配る
シニア語は ほれそれあれで用が足り

生田 大思案



四十号記念特集

卷頭言・表紙絵・編集委員・事務局員一覧
卷頭作品等一覧 特別寄稿者一覧

浅田耕三元編集長・福岡久藏前会長の感懷

四十号！ 文化の歴史は大きい

昭和五十七（一九八二）年、山崎町内の文化団体十九が集まって山崎町文化連盟が結成され、機関誌として「やまさき文化」が創刊されました。

この時、編集委員をされていた浅田耕三先生は、今日も矍鑠として健在で、本号に卷頭作品を寄せていただき、加えてこの四十年の回想を記して頂きました。また、この時町教育委員会職員で担当事務局員としてお世話を頂いた伊藤次郎さんは、三十九号から事務局長として「やまさき文化」のお世話を頂いています。なにか深い因縁を感じます。

宍粟市立図書館に「やまさき文化」の合本が四冊あります。これらを重ね合わせると文庫本の横の長さを超える十二センチの厚さです。収録された編集委員等による卷頭作品は五十を越え、山崎町出身者等による文化、経済、教育、科学などを論じたエッセイや小論の特別寄稿は六十を超しています。また、短歌、俳句、川柳など作品総数は千を越え、表紙を飾る絵は四十点。それらは深い郷愁や豊かな人間観照、そして深遠な知見と切れ味のよい言説に満ちており、総合雑誌を越える量的な蓄積を感じます。この詳細は別添資料の通りです。また、「やまさき文化」の表紙の題字、卷頭言、そして作成過程で中枢となる編集委員の皆様、また、事務と実務を担つて頂いた事務局の方々についても別添資料の通りです。この機会に深甚なる敬意を表したいと思います。



「文は年を取らんのや」

元編集長 浅田 耕三

早いもので「やまさき文化」が四十号刊行となりました。

初刊二号、三号の頃は八幡神社楠風閣で半日かけて編集会議。集まる顔ぶれは大方が中老集団、個性的で一佳言あって甲論乙駁、賑やかで、二、三の若手は適度な緊張を強いらして、けれど楽しい会でした。

四十号と聞いて書架から二十号を引っ張り出してみました。この号は文化会館二階の和室で人数もぐんと減って静かな校正・編集作業でした。二十号に名を残されている多くの方には既に幽明分けてしまつた人もおられる

二十年。けれど残された文は、みな新鮮で意欲に溢れていて、「ああ、文は年を取らんのや」と改めて認識しました。

かくて五十号、六十号と「やまさき文化」は継承され、ますます発展していくであろうと心強く思います。



号(年)	巻頭言	表紙絵	編集委員	事務局
19	壺阪 壽	神名 彰子	◎荒木俊介、浅田耕三、北川泰子、藤村清一、安井道夫、和田秀男、長川耕一、町 悅子	◎藤村清一、河本雅視、広本栄三
20	"	福岡 久藏	—	◎藤村清一、河本雅視 大西耕治、下多謙一
21	"	"	—	—
22	"	片山 吉恵	—	—
23	"	"	◎荒木俊介、浅田耕三、北川泰子、藤村清一、町 悅子、芦田八重、井口武一、稻村幸子、長川耕一、河本雅視、	◎河本雅視、井口武一、 龜井義彦、下多謙一
24	荒木 俊介	福岡 久藏	◎浅田耕三、荒木俊介、芦田八重、井口武一、稻村幸子、長川耕一、河本雅視、藤村清一、北川泰子、町 悅子、	◎前野良造、井口武一、 西川佳代、龜井義彦、 西山健一
25	藤井 慧乗	"	◎浅田耕三、荒木俊介、芦田八重、井口武一、北川泰子、栗山節子、長川耕一、藤村清一、町 悅子、前野良造、	◎前野良造、井口武一、 西川佳代、龜井義彦、 西山健一
26	"	"	◎浅田耕三、荒木俊介、北川泰子、藤村清一、町 悅子、芦田八重、栗山節子、前野良造	◎前野良造、井口武一、 西川佳代、岩露貴裕
27	"	"	◎浅田耕三、荒木俊介、北川泰子、秋久光子、町 悅子、栗山節子、前野良造	◎前野良造、井口武一、 西川佳代
28	"	"	◎鎌田裕明、浅田耕三、荒木俊介、北川泰子、秋久光子、町 悅子、栗山節子、前野良造	◎前野良造、井口武一、 西川佳代
29	福岡 久藏	"	◎鎌田裕明、浅田耕三、荒木俊介、北川泰子、秋久光子、町 悅子、栗山節子、西川博敏、前野良造	◎前野良造、井口武一、 西川佳代
30	"	前田 順一	◎鎌田裕明、浅田耕三、荒木俊介、西川博敏、北川泰子、秋久光子、町 悅子、栗山節子、前野良造	◎前野良造、井口武一、 西川佳代
31	"	生田 安弘	◎西川博敏、浅田耕三、荒木俊介、鎌田裕明、栗山節子、北川泰子、秋久光子、町 悅子	◎前野良造、大谷司郎、 中澤ゆかり
32	"	中居 里子	◎西川博敏、浅田耕三、荒木俊介、鎌田裕明、栗山節子、北川泰子、秋久光子、町 悅子、大谷司郎	◎大谷司郎、伊藤次郎、 中澤ゆかり
33	"	藤原 義弘	◎清水省三、浅田耕三、荒木俊介、鎌田裕明、森本萬千子、北川泰子、秋久光子、町 悅子、前野良造	◎大谷司郎、伊藤次郎、 中澤ゆかり
34	"	堀 廣文	◎清水省三、浅田耕三、荒木俊介、鎌田裕明、森本萬千子、秋久光子、下村悦子、前野良造、小西美穂	◎大谷司郎、伊藤次郎、 中澤ゆかり
35	"	"	◎清水省三、浅田耕三、荒木俊介、鎌田裕明、森本萬千子、秋久光子、下村悦子、前野良造、小西美穂	◎大谷司郎、伊藤次郎、 中澤ゆかり
36	"	中居 里子	◎清水省三、浅田耕三、荒木俊介、鎌田裕明、森本萬千子、秋久光子、下村悦子、前野良造、小西美穂	◎大谷司郎、谷林哲哉、 小西美穂
37	"	"	◎清水省三、浅田耕三、荒木俊介、鎌田裕明、森本萬千子、鳥羽チエノ、下村悦子、前野良造、小西美穂	◎大谷司郎、谷林哲哉、 小西美穂
38 (令和元年) 2019	"	寺本三枝子	◎清水省三、鎌田裕明、森本萬千子、鳥羽チエノ、下村悦子、前野良造、伊藤次郎、野谷るり子、小西美穂	◎大谷司郎、谷林哲哉、 小西美穂
39	前野 良造	藤原 義弘	◎鎌田裕明、下村悦子、秋久澄子、大谷司郎、鳥羽チエノ、野谷るり子、長川伸介、城内悦子、小西美穂	◎伊藤次郎、谷林哲哉、 小西美穂
40	"	多田多恵美	◎鎌田裕明、下村悦子、秋久澄子、大谷司郎、鳥羽チエノ、野谷るり子、長川伸介、城内悦子、小西美穂	◎伊藤次郎、谷林哲哉、 小西美穂

題字 1号～23号、尾崎正一 24号～40号、荒木俊介

備考："上に同じ" — 資料不在 ◎委員長

人は支えあうもの

前 宮 栗 市 山 崎 文 化 協 会 会 長

福 岡 久 藏

いつもなら十一月三日は山崎文化会館で秋のふれあい文化祭が行われます。その中で子供達が獅子舞をします。可愛くて微笑ましいです。なんとも言えない温もりを感じます。それは子供達の親は勿論、地域の皆さんで支えあって来たという地域に根ざした文化の姿だからと思います。

その他、「塩田の千本づき」「宇原の梯子獅子」「高下のまといの舞」などがありますが、それぞれに緊張が漂う一瞬があります。そこには年齢を超えた信じ合い、支え合つて生きていくという人間本来の姿があるのです。

私たち三密を避け、外出を控え、飲食を自粛し、早くコロナを断ち切らないと、人間の持つている一体感などが逆に人間の苛立ちや、分断が剥き出しになり、コロナが終わっても、集うことや触れることがない味気ない世界が広がるのではないかと、私は心配しています。

「やまさき文化」卷頭作品等一覧

	卷頭作品		短歌	俳句・川柳・冠句	主な記事
号(年)	執筆者	作品名	選者・世話人		
1 (昭和57年) 1982	浅田 耕三	袍の紐	藤村 省三	和田 疎人	山中陽一（薪能）、藤井慧乘（手造りオーケストラ）、根岸元彦（郷土の歴史と文化）、福山司城（尺八と私）、庄和夫（稽古と作為）
	安井 道夫	鳥葬のことなど			
	荒木 俊介	文学再入門の記			
2	浅田 耕三	老ノハテニ	藤村 省三	和田 疎人	伊藤親保（サンデー秀句会）、郷土研（山崎町の史跡）、杉元清美（新潮会30年）、前野四郎（大井萬兵衛翁）
	安井 道夫	高橋たか子を読む			
	荒木 俊介	傀儡師目代の話			
3	浅田 耕三	帰国	藤村 省三	和田 疎人	小川登（美術とは）、藤井七代（町民合唱団）、高野圭介（宍粟の碁）、石野和雄（一管に託す）
	安井 道夫	ポール・デルヴォー讃			
	荒木 俊介	阿蘇の史盗人に遭う話			
4	浅田 耕三	いまいづこ	松本 富治 稻村 幸子 藤村 省三	福田 泊水	橋本一郎（さつき祭り）、横江敏夫（文化と美術協会）、朱山毅（仏教と文化）、藤多克己（世阿弥の著述から）
	根岸 元彦	京都懐古			
	安井 道夫	ドラマで会った男			
5	荒木 俊介	西南の役異聞	松本壽賀子	和田 疎人 福田 泊水	和田秀男（生沢朗画伯遺作展）、堀口春夫（郷土研究会の歩み）、谷川柳秀（冬偶感）、田中健一（心の自然）
	根岸 元彦	さくら隨想			
6	浅田 耕三	晏嬰	藤村 省三	原田小次郎 芦田 八重	平松幹司（対話のある会）、安井清介（郷土研究会）、田口燐攝（吟詠芸術）、池田大典（土蜘蛛の巣）
	根岸 元彦	アメリカ紀行			
	安井 道夫	阿修羅のこと			
7	荒木 俊介	越後路雪話	北川ちゑ子	和田 疎人	和田疏人（青嶺句会40周年）、長川耕一（芸能祭に弾みを）、杵屋佐与恵（侏儒の愁い）、春名義教（観世流宗家をお迎えして）
	北川 泰子	ワラビとガンの話			
	根岸 元彦	鎮守の森にて想う			
8 (平成元年) 1989	安井 道夫	新蔵公路を行く	稻村 幸子 藤原 すみ 栗山 節子	芦田 小紫 八重 いく	安井道夫（根岸さん追悼）、北岡修（嘘）、江崎金治郎（山崎薪能）、塚田清一（縁あつて）、小川登（漢詩と日本人の心）
	和田 秀男	ふるさとカルタを発行			
	松井 叔生	私のふる里頌			
9	浅田 耕三	車曳き	稻村 幸子 山崎きよ子	原田小次郎	堀口春夫（ふる里創生に思う）、上野一人（さつきの町山崎町）、千代國一（藤村省三歌集抄）、久宗丑雄（トリカブトの群落）
	安井 道夫	大アンデス文明展を見て			
	小倉 正恒	戦闘帽の教訓			
10	荒木 俊介	港の見えるビラで	藤村 省三	下村 君子	本條衛（会話力）、福山清一（「やまさき文化」10年）、岡本亘弘（電話100年）、屋敷豊子（ソナタ『雪』）、藤原誠（にじみ会う心）
	安井 道夫	インドからの手紙			
	長川 太郎	帰ってきた今浦島			
11	安井 道夫	クルディスタンの思い出	藤村 省三	和田 疎人	福山清一（壺阪壽文化連盟会長の叙勲を祝して）、伊野操治（薪能奉納）、福岡久藏（画家熊谷守一）
12	浅田 耕三	刑屍剖観	藤原 すみ	和田 疎人 永井とみ代	藤村清一（ふるさとの歌碑）、中川春郎（天橋立）、柳田弘（山小校歌）
13	荒木 俊介	一 芸	稻村 幸子 伊東まさ子	和田 疎人	長田一三（東洋蘭）、村上嘉宏（人格構造）、横江敏夫（水墨画）
				秦 千里	
14	安井 道夫	「恨」の峠を超えて	栗山 節子 山崎きよ子	藤家 千代 福田 泊水	大谷司郎（守令交代記）、田内龍暁（臨書と創作）
		『胎児の世界』という本			
15	浅田 耕三	桃顔露にほころび	稻村 幸子	田中 良子	藤井慧乘（スクイム市民との交流）、藤井山陽（土と炎の芸術）
16	荒木 俊介	高 名	栗山 節子 稻村 幸子	秋久 光子	杉元正輝（祭りのあと）、井口武一（植物観察会）、金井信治（さつき）、岸本正理（草土千軒）
17	安井 道夫	インドからの手紙（2）	山崎 智恵	杉山美保子	千田淳平（パンブーフアイヴ）、根岸雅晴（祭り）、野村恵子（祭り）
18	浅田 耕三	山崎闇斎と保科正之	稻村 幸子	山口 栄子	河本雅視（文化財）、織金義雄（法務局）、春名豊明（さつきを思う）
19	荒木 俊介	ふたりの奉行	稻村 幸子	井口 泰子	金近小春（茶華道協会30周年）、久保寅夫（淨瑠璃の風景）



号(年)	卷頭作品		短歌	俳句・川柳・冠句	主な記事
	執筆者	作品名	選者・世話人		
20	安井 道夫	「お茶の文化」あれこれ	稻村 幸子	福田 泊水	浅田耕三（「回想・やまさき文化」）、稻村幸子（世纪の節目）
21	浅田 耕三	流す箇はさきまかせ —雨情と山崎—	山崎 智恵	三浦 ゆき	衣笠弘一郎（錦鯉に魅せられて）安川英美子（民踊グループと）、大部正勝（波賀町観月）
22	荒木 俊介	豪奢愚直	稻村 幸子	芦田 八重	森本一二（100号記念史）、英保英一（篆刻）、竹添齋（心を写す鏡に）
23	浅田 耕三	蟹	森本萬千子	芦田 八重	三谷恭三（第1回山崎能）、西川慶子（人生七転八起）
24	町 悅子 浅田 耕三	来たのは誰? 道	栗山 節子	福田 泊水 山田 醉仙	壱阪壽前会長追悼、宗平圭司（都多の獅子舞）、塚田美紀（敬老会に参加して）
25	町 悅子 浅田 耕三	お殿様もはまったく「石門心学」 『立待居待』	栗山 節子	芦田 八重 山田 醉仙	吉岡章雄（県大会優勝）、赤松茂毅（数学の魔術とエムエイ）、春名俊夫（史跡巡り）
26	荒木 俊介	シベリアに消ゆ	稻村 幸子	三浦 ゆき 山田 醉仙	伊藤勉（新潮会55年の歩み）、竹添和彦（「宍粟の碁」を尋ねて）
27	大谷八十四	ブラジルにて	栗山 節子	鳥羽チエノ 山田 醉仙	鎌田裕明（闇斎さんの語りかけ）福岡久蔵（市展に思う）
28	浅田 耕三	桜井の別れ	菅谷美津子	田中 良子 清水 省三	柳田薰（歳のとり方を学ぶ）田中義弘（歴史の禍根）
29	荒木 俊介	わが城下町 “やまさき” 今昔	山崎 智恵	山口 栄子 清水 省三	長田一三（蘭への思い）小田博己（日本武道館への道）
30	浅田 耕三	かんえい堤	栗山 節子	茂田 茂太 清水 省三	下村久仁甫（私の生きる「景色」）深川剛佑（ゴールデンエイジ）
31	浅田 耕三	安吉橋の鬼	前田ゆきこ	杉山美保子 清水 省三	伊藤一郎（巨木巡り）谷笛利通（齡六〇の新潮会）
32	荒木 俊介	「セミヨーノフの金塊」 始末記	南 裕之	若松 幸子 清水 省三	田中良子（若い世代に繋ぐ）保杉弘（風景の味わい方）
33	浅田 耕三	結びとどめよ わが魂を	安東はつ子	渡辺 明美 清水 省三 中瀬 公三	坂本忠彦（山崎町歩きの会）三宅哲郎（身辺記「苔庭らしく」）寺本三枝子（心はいつも青春）
34	荒木 俊介	今昔千一夜物語 白拍子有情	栗山 節子	田中 良子	三谷香苗（豊かな國）、原弘幸（川戸獅子舞保存会）、宗平圭司（新潮会去年今年）
35	浅田 耕三	源氏物語 —桐壺から夕顔まで—	山崎 智恵	杉山美保子	野谷るり子（宍粟の文化人を目指し）鳥越繁（草木の名前）、野村和男（歩き遍路に想う）
36	荒木 俊介	ある貴族屋敷の謎	森本萬千子	鳥羽チエノ 中瀬 公三 長川 伸介	中居里子（黒藪豊子先生を偲んで）里見亘（芸人の俳句）伊藤一郎（北但馬櫻紀行）
37	浅田 耕三	古銭有情	森本萬千子	中尾 富子 中瀬 公三 清水 省三	田中健三（郷土研究との出会い）、上林博實（「新潮65年」と「やまさき文化」）木藤友江（五行歌）
38 (令和元年) 2019	鎌田 裕明	福原謙七の輝ける日々	森本萬千子	三浦 ゆき 中瀬 公三 清水 省三	片山昭悟（研修旅行に参加して）、宗平圭司（宍粟市に日本遺産を）、西川慶子（設立40周年）、小倉庸永（茶華道50周年）、秋久澄子（50周年記念展）、下村弥（私の謡曲）
39	安井 道夫	靈峰アムネマチンの 思い出	城内 悅子	鳥羽チエノ 中瀬 公三 長川 伸介	安井道夫元編集委員追悼、山口澄代（茶華道と私）、福岡久蔵（山崎美術協会と60年）、小林繁樹（平成から令和へ）
40	浅田 耕三	往事をあるく 宍粟、三日月、赤穂	城内 悅子	鳥羽チエノ 中瀬 公三 長川 伸介	「やまさき文化40号」記念、荒木俊介元編集委員長追悼、

「やまさき文化」特別寄稿者一覧

号(年)	氏名	所属・役職等	題名
8 (1989) 平成元年	松井 叔生	洋画家 二紀会理事	私のふる里頌
	北岡 修	山崎保健所長 医学博士	嘘
9 (1990)	小倉 正恒	広島県立大学教授	戦闘帽の教訓
10 (1991)	長川 太郎	灘神戸生活協同組合名誉理事	帰ってきた今浦島
	岡本 巨弘	N T T 播磨山崎営業所長	電話100年とコミュニケーション文化



号(年)	氏名	所属・役職等	題名
11(1992)	前田 浩	熊本大学医学部主任教授	科学技術におけるコミュニケーションと言葉
	植木 行宣	京都府文化財保護課	故郷の記憶から
12(1993)	松岡 史朗	野生動物写真家	サルに魅せられて
	清水大吉郎	京都大学理学部講師	曲がる石の話
13(1994)	堂元 光	N H K 政治部記者	38年ぶりの政権交代 —前途多難な細川政権—
	上山 安敏	京都大学名誉教授	あるパーティーの席で
14(1995)	河本 泰	農学博士	稻作雑感
	谷口 清作	警察庁長官官房国際部国際第2課長	語学勉強のことなど
15(1996)	中嶋 彰	日本経済新聞社科学技術部次長	ウソと科学の眼
	山中 昭夫	医療法人財団神戸海星病院理事長・病院長	新しい眼科の手術と山崎町
16(1997)	北川 博敏	香川短期大学学長	塩
	柳田 博美	ガンバ大阪チームドクター	アジアへ、そして世界へ
17(1998)	八瀬 清志	通商産業省工業技術院物理工学工業技術研究所 高分子物理部グループリーダー	ふるさとは遠きにありて思うもの
	新聞 勝代	元山崎小学校長	お箏と私
18(1999)	湯野 勉	龍谷大学教授	当世大学事情
	杉山真由美	染色家 嵐峨美術短期大学講師	染める心、生きる力
19(2000)	黒藪 次男	作家	日中合作映画の誕生 —『チンパオ』と『少年の目』—
	竹田 浩三	大分県企画文化部総合交通対策局	大分にて
20(2001)	三浦 良造	一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授	新しい大学院作り
21(2002)	稻村 一郎	(株)日立メディコ勤務	若者よ、世界を観よう、識ろう
	松井 叔生	画家	奇しき出来ごと・ふる里に想う
22(2003)	沢田 寿仁	虎の門病院消化器外科部長	正月は故郷で
23(2004)	藤井 久子	元安富北小学校長	直木賞作家 宮尾登美子さんの講演を聞いて
24(2005)	本條 肅	千葉大学教授	長い目で見ると
25(2006)	尾崎 久記	茨城大学教授	「教育」再考
26(2007)	田中 良晴	大阪府立大学助教授	“誠”なる理科学教育に向けて
27(2008)	富和 昭弘	彫刻家	飲んだらり、だらだらと
28(2009)	堂元 光	N H K 大阪放送局長	地域貢献～ふるさとに感謝
29(2010)	野中 章弘	ジャーナリスト	『戦いの記憶を歴史に刻むこと』
30(2011)	赤川 弘三	日本美術家連盟会員	上海で考えたこと－漢字と和製漢字
31(2012)	前田 浩	崇城大学D D S 研究所特任教授 熊本大学名誉教授	平成23年度日本癌学会吉田富三賞を受賞して
32(2013)	松岡 史朗	動物写真家	故郷は遠きにありて思うもの
33(2014)	稻澤 譲治	東京医科歯科大学難治疾患研究所教授	宮古島の青い空
34(2015)	八瀬 清志	独立行政法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター	2019年に世界が変わる ～SI単位の再定義～
35(2016)	野谷るり子	県立山崎高等学校長	宍粟市の文化人をめざして
36(2017)	柳田 芳伸	長崎県立大学経済学部教授	文献・資料収集熱と人間的進歩
	江崎欽次朗	能楽師ワキ方福王流江崎家十二世	山崎における能楽文化と江崎家
37(2018)	中野 啓介	神戸新聞社姫路支社長、 神戸文学館館長、甲南女子大非常勤講師	新子さんにもらった山崎の縁
38(2019) 令和元年	三木 哲男	中央公論新社取締役雑誌・事業局長	フリー、編集者、わが変遷
39(2020)	有田 尚徳	弁護士	文化人になりたい
40(2021)	中島 妙子	姫路文学編集人・作家	ふるさとの訛りなつかし

およろこび

改組新第七回 日展 特選受賞

◆宍粟市山崎町在住のお二人が受賞されましたので
ご紹介いたします。

【書部門 牧野聖雲さん】



経歴

牧野さんは今後“文字を打つ・文字を書く”その双方の優劣にこだわるのではなくそのおもしろさ、楽しさを（とりわけジュニアの人達に）発信する活動がしたいと話されています。

○ひとつは、後に続く人達に一つの『道標』を示したいと思っています。

歳を重ねた者は何らかの形で社会に貢献しなければならないと考えています。
現在、国の財政や考え方の変化とともに芸術教育が軽視されているようを感じています。宍粟市内の高校生、中学生の美術部の人たちが必要とされるなら、私ができることは応援しに行きたいと思っています。また将来、美術の方面に進みたい人がいるなら、その人たちの『標』のひとつになるよう私自身の道を作りたいと思っています。

経歴

- 書道香櫻会 副理事長
- 兵庫県書作家協会 運営理事（第一展覧会部部長 県展審査員）
- 日本書芸院 理事（一科・二科 審査員）
- 読売書法展 理事（審査員八回）
- 日展会友
- 日本の書展（委嘱作家）

主な受賞歴

- 日展入選十六回・特選一回
- 読売新聞社賞（二回）
- 日本書芸院 史邑賞（二回）
- 兵庫県展（委員大賞）
- 半どんの会（文化賞）

【洋画部門 志水和司さん】

志水さんは今後取り組んでみたい活動として次のように話されています。

○ひとつは、私自身の知識・技術をより深めたいと思っています。



私はこれまでほとんど美術に関する専門的な教育を受けたことがありません。いわゆる自己流で絵を描いてきて、それでいいと思ってきました。でも絵画の友人と話をしていると自分の狭い視野を反省させられ、すごく勉強になり今は、わからないことは誰にでも聞くように心掛けています。知識は多いほうが多いと思います。それを使う知恵こそがその人となりを表すのだと思います。絵画とは自然を写すことではなく創造することだと思います。

○ひとつは、後に続く人達に一つの『道標』を示したいと思っています。

歳を重ねた者は何らかの形で社会に貢献しなければならないと考えています。
現在、国の財政や考え方の変化とともに芸術教育が軽視されているようを感じています。宍粟市内の高校生、中学生の美術部の人たちが必要とされるなら、私ができることは応援しに行きたいと思っています。また将来、美術の方面に進みたい人がいるなら、その人たちの『標』のひとつになるよう私自身の道を作りたいと思っています。

経歴

- 宍粟アートクラブ代表 □美術グループM A D会員
- 美術研究団体 白日会会員 □白日会関西支部 副支部長
- 赤穂市展 審査員（過去） □佐用町展 審査員（過去）

主な受賞歴

- 日展入選七回 □加東市展市長賞
- 加西市展市長賞

ともしびの賞 受賞

福岡 久 藏 さん

福岡久藏さんは教職の傍ら、洋画の制作活動に取り組んでこられ、退職されてからは、欧州など海外にも広く題材を求め、精力的に大作の制作に励まれ日展の入選も果たされました。

美術団体の示現会名誉会員としての活動もされる一方で、長年にわたり山崎文化協会及び宍粟市文化協会会长を努めてこられ、地域の文化の振興にご尽力を頂くとともに本会機関誌「やまさき文化」への投稿や、表紙を飾る絵画、原稿に沿った挿絵などこれまで沢山のご協力を頂いております。

また、これらの活動と並行して山崎美術協会会长や宍粟美術協会会长、宍粟市美術展運営委員長として献身的に組織を束ね、活動の牽引役をつておられ、更には若い人達の発表の機会を増やすなど宍粟市の文化向上の発展に尽力し続けておられます。



福岡さんはこのたび兵庫県から、長年にわたりひたむきな努力を続け地域文化の向上に貢献し著しい活動と功績を挙げたことを讃える「ともしびの賞」を授与されました。

文化協会会員一同、心からお慶び申し上げますとともに、これまでのご尽力に深く感謝申し上げます。

荒木俊介さんを悼む

「やまさき文化」編集委員会

昭和五十七年二月、「やまさき文化」は文学、短歌、俳句、能、美術、音楽などをたしなむ人々が地域文化の一層の興隆、発展を願って結成した山崎文化協会によって創刊されました。

発行部数一〇〇〇部、B五判、二十八頁の創刊号は庄静夫会長の巻頭言に始まる、当時の山崎の文化を担っていた人たちの力作を収載し、西播でも傑出しているとの評価を得たものでした。この編集委員八名、荒木さんは副編集長格で編集に参画、平成二（一九九〇）年八号からは根岸元彦編集長急逝後、編集長として二十三号（二〇〇四年）まで十四年間「やまさき文化」を牽引され、このあとも編集委員としてご尽力頂きました。

この間、巻頭作品十五作を発表され、名実ともに「やまさき文化」の中心であります。扱われた主題は「今昔物語」にかかるものをはじめ、ロマノフ王朝の財宝の一部、所謂『セミヨーノフの金塊』（三十二号）をめぐる作品や、日清戦争からシベリア出兵に至る風雲の二十四年間、この歴史を生きた女馬賊菊子を描いた『シベリアに消ゆ』（二十六号）など平安時代から明治・大正と広い範囲に及びます。書くためには膨大な資料を集め、読みこなす明晰な知性が必要です。趣味は山崎や姫路の図書館に行くことと囲碁と語られるのが口癖であります。「作品の資料調べ」を趣味と言われるのに、「恐れる」とかありません。著述とか文学と言われなかつたことの凄さを感じます。ともあれ、博識と倦くことのない探求心、そして高度の集中力によるご活躍でありました。八十九歳から九十三歳の五年間に三本の作品、頂いた原稿用紙総数は四〇〇字詰め、一二〇枚を超えた。これはもう、私たちにとって彼方に屹立する先達として、どう努力しても到達できない位置におられたのです。

「最上山のベンチに腰を下ろすと昔が帰ってくる」という“あなた”的詩の一節を思い出します。いつか、ふと、満開の桜の下、「人の世の盛衰や栄光と挫折」の歴史を熱い心で語る“あなた”に会えるような気がしてなりません。

宍粟市山崎文化協会

役員及び団体名

会長	前野 良造	監事	前野 洋一
副会長	三谷 恭三	事務局長	菅原 淳
	宮脇 昭介	事務局次長	伊藤 次郎
秋久	大谷 澄子	会計	小西 美穂
田中 健三	山崎郷土研究会 新潮会	(敬称略・順不同)	
鎌田 裕明			
城内 悅子	山崎歌人協会 山崎朋碁同好会		
三宅 哲朗	宍粟茶華道協会 さつき民踊グループ		
小倉 康永	山崎町謡曲同好会 山崎郷土芸能保存会		
三谷 恭三			
栗山 忠雄			
安井 克典			
前田 香織			
鳥羽チエノ	山崎俳句協会	編集長	鎌田 裕明
西川 康子	さつき民踊グループ	委員	下村 悅子
福岡 久藏	宍粟美術協会		大谷 澄子
岸本 幸子	山崎邦楽の会		鳥羽チエノ
福井 中野	山崎日本舞踊の会		野谷るり子
藤永 刚志	山崎詩舞道連盟		城内 悅子
菅原 幸正	山崎町民合唱		小西 美穂
千本 安子	山崎いさわ冠句会		
宇田 幸夫	山崎民謡連合会		
渡辺 禮子	川柳破丸会		
小林由佳子	山崎かるた同好会		
山本 修示	宍粟山嶽作り甲冑会		
宍粟市吹奏楽団			

関係団体の普段の活動におかれましても制約を受け練習、研修、発表、交流の場等々もできないうえ、今後の見通しも立たず困惑されたことと拝察いたします。

この様な中、本年は本文化協会のホームページ作成に取り組んでいます。ホームページの内容は計画段階ですが主なものとして「活動理念と地域の紹介」「文化協会の歴史」「事業

令和二年度はコロナウイルス感染により山崎文化協会の運営が困難を極めました。総会は中止、春の芸能祭等自主事業も中止せざるをえませんでした。

令和二年度はコロナウイルス感染により山崎文化協会の運営が困難を極めました。総会は中止、春の芸能祭等自主事業も中止せざるをえました。

事務局だより

令和二年度はコロナウイルス感染により山崎文化協会の運営が困難を極めました。総会は中止、春の芸能祭等自主事業も中止せざるをえました。

令和三年度には新型コロナウイルス感染がワクチンなどで抑制され、拡大を阻止する新しい生活様式を身につけたいものです。そうして徐々に平穀な日々となり、文化活動の春が訪れますよう祈念しています。

「やまさき文化」編集委員

最後になりましたが、機関紙「やまさき文化」四〇号を発刊するにあたり各団体からの玉稿をお寄せいただき、また本誌広告を頂きました市内の事業所の格別のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

令和三年度には新型コロナウイルス感染がワクチンなどで抑制され、拡大を阻止する新しい生活様式を身につけたいものです。そうして徐々に平穀な日々となり、文化活動の春が訪れますよう祈念しています。

表紙は宍粟美術協会会員の多田多恵美さん。清冽な溪流の音が聞こえてくるような「水ぬるむ頃」が私たちの原風景の一コマと繋がります。未曾有の新型コロナの猖獗下、緊急事態宣言が延長される中で、事務局委員の献身的なご尽力によって四年記念号がこのように完成したことはありがたいことです。原稿を寄せて頂いた全ての皆さんのご協力を感謝致します。

事務局長 伊藤次郎

編集後記

創刊四十年を期して、既刊冊子を俯瞰する資料をとりまとめました。巻頭作品、巻頭言、表紙絵、特別寄稿、短歌、俳句そして各団体からの寄稿を読み、編集委員と事務局員をリストアップしました。懐かしい方々も多く、往時を偲び、しばし深い感懷を憶えたことでした。

本号は、創刊以来十七の作品を寄せて頂いている浅田耕三さんの幕末、

やまさき文化 第40号

令和3(2021)年3月25日発行

編集『やまさき文化』編集委員会
発行 宍粟市山崎文化協会
事務局 宍粟市教育委員会事務局
社会教育文化財課内
印刷 (株)支林館印刷所



Specialty Camera Shop
コニカミノルタ

■本店/〒671-2576
宍粟市山崎町鹿沢26-3
TEL(0790)62-2089 FAX(0790)62-7429
E-mail info@ko-e-1972.com

■咲ランド店/〒671-2545
宍粟市山崎町中井10 咲ランドSC1F
TEL・FAX(0790)63-0533
E-mail saki@ko-e-1972.com

不動産のことならお気軽にご相談下さい

土地・建物・売買・仲介・マンション・アパート賃貸

株式会社ファースト商事 エイブル

親切丁寧をモットーに社員一同皆様のご来店をお待ちしております。



株式会社ファースト商事
エイブルネットワーク山崎店
宍粟市山崎町今宿21番4
TEL 0790-62-0001
FAX 0790-62-4787

株式会社ファースト商事 福崎店
エイブルネットワーク福崎店
神崎郡福崎町西田原1821番4
TEL 0790-22-1235
FAX 0790-22-1236

ふじむら貯衣裳

人生の節目を飾る大切な一着を貴方に

結婚式はもちろん成人式・卒業式・七五三
また留袖や訪問着・喪服のご衣裳など
豊富な品揃えでお客様をお待ちしています。



兵庫県宍粟市山崎町山崎181 Tel:0790-62-0052 <http://www.fujimura-kashiishou.com>

贈り物に…「しそう杉ボールペン&シャープペン」

三菱鉛筆「故郷（ふるさと）の木持ち」シリーズは、地球温暖化と地域材振興策に「少しでも役に立つ商品」をコンセプトに作られた筆記具です。全国の都道府県産のスギ、ヒノキ、ヒバ、マツ等に高度な木材の加工技術を施したもので、適度な重さが高級感を醸し出しています。兵庫県では「しそう杉」が選ばれています。「しそう杉」のほのかな香りをお楽しみ下さい。



¥1,800 + 税

さらにレーザー彫刻（オプション）であなただけの1本に…

参加賞、記念品に…しーたんステーショナリー各種あります！

トクサヤ文具

山崎町山崎 180-1 TEL62-0067

ほっと、ひといき 伊沢の里

○お祝いの会食 ○法要後の会食・仕出し
その他各種宴会承ります

リラクゼーションルーム 好評稼働中

〒671-2517 宍粟市山崎町生谷214番地1 TEL0790 (63)1380



森の妖精/ネーチャ

地域で最も信用・信頼される
金融機関をめざして



●豊かな街づくりをお手伝いする●

西兵庫信用金庫

<https://www.shinkin.co.jp/nisisin/>

TEL 0790-62-2020



森の妖精/サッキー

電気代がとにかくおトクな **ENEOSでんき**

電力会社への解約手続き・
切替え工事は不要！

**あなたも今すぐ、
おトクを実感！**

※オール電化住宅は対象外とします。



= お車と住まいの快適、なんなりと =

ホンジョウ

(株)本條商店・ホンジョウプロパン(株)

本社 宍粟市山崎町中井 96

石油・電力・オイル・洗車
タイヤ・車両整備・バッテリー

TEL 0790-62-4321

電気・ガス・水道工事・家電全般
住宅リフォーム・太陽光発電

TEL 0790-63-1234



NAGATA

長田産業株式会社

本 社 兵庫県宍粟市山崎町千本屋215

TEL (0790)62-1177(代)

FAX (0790)62-1219番

ホームページ <http://www.nagatasangyo.co.jp/>

つくるでつなぐ



上林建設株式会社

<http://www.uebayasi.co.jp>



イメージキャラクター
けんちくん

■ 医療施設 ■ 介護施設 ■ 工場・事務所 ■ 店舗 ■ 住宅

〒671-2554 兵庫県宍粟市山崎町御名 226 番地 1 TEL 0790-62-2828(代) FAX 0790-62-7186

TAUCHI DENTAL CLINIC 田内歯科医院

院長 田 内 義 隆

副院長 田 内 拓 史

宍粟市山崎町鹿沢115-7

休診日

木・日・祝祭日

TEL. 0790-62-8099

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
8:15~12:45	○	○	○	休	○	○	休
14:00~18:30	○	○	○	休	○	17:00まで	休